

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	国語	履修学年	3	教科書(出版社)	探求 論理国語(桐原書店)、文学国語(筑摩書房)
科目	現代文Ⅱ	必修・選択	必修	副教材等	読解を深める現代文単語 評論・小説 改訂版(桐原書店)、新版 意味から学ぶ 頻出漢字3000(第一学習社)、(改訂版)新 共通テスト対策決戦現代文完答30(尚文出版)、大学入試国語頻出問題1200五訂版(いっずな書店)
単位数	2				

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。また、生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

(2)論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期 考查
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
評論Ⅰ ・オブジェとイマージュ(高階秀爾) ・人間の領域(日高俊隆)	・二項対立による比較対照に着目し。評論の読み方に習熟する。 ・著者の主張を踏まえて、自分自身が芸術に触れる際の感性を磨く。 ・人間の生きる論理を把握し。どう扱うべきかについて考える。	文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について十分に理解し、正しく活用している。	主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して、内容を正しく解釈し、考察している。	筆者の主張を正しく理解し、わかりやすくまとめようとしている。また、参考資料と重ねて読むことでテーマについての理解を深め、自分自身が生きることの意味について考察している。	4月～5月・中間考查
評論Ⅱ ・身体と出現(平野啓一郎) ・絵画は紙幣に憧れる(楳木野衣)	・評論の読み方に習熟する。 ・「帰納」や「演繹」など評論特有の考え方に触れ、的確に理解する。 ・人間の身体と周囲の関係性に着目し、人間の存在についての認識を深める。 ・隠喩の機能を理解し、未知の見方を手に入れる。	文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について十分に理解し、正しく活用している。 ・効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自らの文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価し、書き手の意図を正しく把握している。	本文の内容を踏まえて、私たちを取り巻くものと身体の間について、自分の考えを深めようとしている。	5月～7月・期末考查
評論Ⅱ ・市民社会化する家族(今村仁司) ・隠れん坊の精神史(藤田省三)	・評論の読み方に習熟する。 ・本文を読み解いて、抽象的な表現の内容をつかみ、具体例 ・緊密な論理で構成された評論文を部分と部分の相互関係を理解しながら丁寧に読み、論旨の流れを把握する。から普遍性を引き出す論法を学ぶ。	・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について十分に理解し、正しく活用している。 ・効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自らの文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 ・筆者の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価している。	・本文内容の正しい理解を踏まえ、筆者の主要な見解をわかりやすくまとめようとしている。	9月～10月・中間考查
総合入試問題演習Ⅰ ・入試現代文実践演習	大学入試共通テスト演習を中心に、その内容を的確にとらえ、選択問題や内容説明問題の解き方を活用し、文章を評価することを通して、考えを深める。	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句を習得・活用し、文章の中で積極的に活用している。	「読むこと」において、作者や出題者の考えや目的、意図を捉えて内容を理解するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。	・積極的に文章を多面的・多角的な視点から考察し、学習課題に沿ったものの見方、感じ方、考え方を深め、本文全体を正しく読解して正確に到達しようとしている。 ・本文内容の正しい理解を踏まえて、自分の考えを深めるとともに、考えたことを的確に捉えようとしている。	10月～12月・期末考查
総合入試問題演習Ⅱ ・入試現代文完成演習	大学入試共通テスト演習をもとに、その内容を正確にとらえ、選択問題や内容説明問題及び記述問題の解き方を活用し、文章を評価することを通して、考えを深める。	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句を習得・活用し、文章の中で積極的に活用している。	「読むこと」において、作者や出題者の考えや目的、意図を捉えて内容を深く理解するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。	・積極的に文章を多面的・多角的な視点から考察し、学習課題に沿ったものの見方、感じ方、考え方を深め、本文全体を正しく読解して正確に到達しようとしている。 ・本文内容の正しい理解を踏まえて、自分の考えを深めるとともに、考えたことを的確にまとめようとしている。	1月～3月・学年末考查

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	国語	履修学年	3	教科書(出版社)	探求 論理国語(桐原書店)、文学国語(筑摩書房)
科目	現代文探究	必修・選択	必修	副教材等	読解を深める現代文単語 評論・小説 改訂版(桐原書店)、新版 意味から学ぶ 類出漢字3000(第一学習社)、(改訂版)新 共通テスト対策決戦現代文完答30(尚文出版)
単位数	3				

1 学習の到達目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的確に理解し効果的に効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。また、生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。</p> <p>(2)論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p>

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
<p>評論Ⅰ</p> <ul style="list-style-type: none"> オプジェとイマージュ(高階秀爾) 評論Ⅱ 市民社会化する家族(今村仁司) 	<ul style="list-style-type: none"> 評論の読み方に習熟する。 緊密な論理で構成された評論文を部分部分の相互関係を理解しながら丁寧に読み、論旨の流れを把握する。 著者の主張を踏まえて、自分自身が芸術や社会問題に触れる際の感性を磨く。 	<ul style="list-style-type: none"> 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について十分に理解し、正しく活用している。 効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主張を支える根拠や結論を導く論理を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して、内容を正しく解釈し、考察している。 書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「イマージュの世界」や「近代家族」、「市民社会」の筆者の考えについて、的確にまとめ、多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。 	4月～5月・中間考査
<p>小説(一)</p> <ul style="list-style-type: none"> 舞姫(森鴎外) 論文を読む ベルリンの「内」と「外」 — 『舞姫』を通じて(前田愛) 	<ul style="list-style-type: none"> 語りの時制や文体・時代背景なども意識して、物語を読み味わう。 2年次に学習した夏目漱石『こころ』と読み比べて、「明治」という時代の特徴について理解する。 論文の基本的な読み方を習得する。 論理の展開を捉え、『舞姫』における都市空間と主人公の心情の表現の関わりを理解する。 論文の内容をきっかけとして、小説『舞姫』に関心を抱く。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解し、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句を習得し、文章の中で積極的に活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を正確に把握しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材の内容に関心をもち、学習の見通しを持って言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。 言葉を通して積極的に他者社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。 論理の展開に沿って筆者の主張を正しく理解し、わかりやすくまとめようとしている。また、引用された小説の内容に関心をもち、調べたり読んだりしている。 	5月～7月・期末考査
<p>評論Ⅱ</p> <ul style="list-style-type: none"> 隠れん坊の精神史(藤田省三) 評論Ⅲ 地獄の想像力—ボードリヤールの寓話(若林幹夫) 	<ul style="list-style-type: none"> 評論の読み方に習熟する。 本文を読み解いて、抽象的な表現の内容をつかみ、具体例から普遍性を引き出す論法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を正確に把握している。 筆者の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文内容の正しい理解を踏まえ、筆者の主要な見解をわかりやすくまとめようとしている。 	9月～10月・中間考査
<p>総合入試問題演習Ⅰ</p> <ul style="list-style-type: none"> 入試現代文実践演習 	<p>大学入試共通テストや私立大学入試過去問題をもとに、その内容を的確にとらえ、選択問題や内容説明問題の解き方を活用し、文章を評価することを通して、考えを深める。</p>	<p>論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句を習得・活用し、文章の中で積極的に活用している。</p>	<p>「読むこと」において、作者や出題者の考えや目的、意図を捉えて内容を理解するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に文章を多面的・多角的な視点から考察し、学習課題に沿ってものの見方、感じ方、考え方を深め、本文全体を正しく読解して正解に到達しようとしている。 本文内容の正しい理解を踏まえて、自分の考えを深めるとともに、考えたことを的確にまとめようとしている。 	10月～12月・期末考査
<p>総合入試問題演習Ⅱ</p> <ul style="list-style-type: none"> 入試現代文完成演習 	<p>大学入試共通テストや国立・私立大学入試過去問題をもとに、その内容を正確にとらえ、選択問題や内容説明問題及び記述問題の解き方を活用し、文章を評価することを通して、考えを深める。</p>	<p>論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句を習得・活用し、文章の中で積極的に活用している。</p>	<p>「読むこと」において、作者や出題者の考えや目的、意図を捉えて内容を深く理解するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に文章を多面的・多角的な視点から考察し、学習課題に沿ってものの見方、感じ方、考え方を深め、本文全体を正しく読解して正解に到達しようとしている。 本文内容の正しい理解を踏まえて、自分の考えを深めるとともに、考えたことを的確にまとめようとしている。 	1月～3月・学年末考査

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	国語	履修学年	3	教科書(出版社)	高等学校 古典探究(数研出版)
科目	古典探究Ⅱ	必修・選択	必修	副教材等	四訂版 Key&Point古文単語330(いづな書店)、九訂版 体系古典文法(数研出版)、三訂版 体系漢文(数研出版)、新版 源氏物語で理解する歌謡・識別マスターワーク(数研出版)、和歌の基礎知識と読解のポイントが学べる 和歌の力がつくノート(尚文出版)、〈四訂版〉共通テスト対策古
単位数	3				

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。(2)生涯にわたる社会生活に使える他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。(3)言葉がもつ価値への認識を高めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての時間をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めている。	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のもの見方、考え方の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
<p>随筆</p> <ul style="list-style-type: none"> 二月つごもりごろに(枕草子) 宮に初めて参りたるころ(枕草子) <p>評論</p> <ul style="list-style-type: none"> 俊成自讃歌のこと(無名抄) <p>史伝</p> <ul style="list-style-type: none"> 廉頗・藺相如(史記) 刎頭の交わり 	<p>【随筆「枕草子」】</p> <ul style="list-style-type: none"> 清少納言への周囲の評価と宮廷社会の特質を読み取る。 <p>【評論「無名抄」】</p> <ul style="list-style-type: none"> 俊成の歌論批評を通じて、中世の美的価値観を理解する。 <p>【史伝「廉頗藺相如列伝」】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「刎頭の交わり」に至る経緯から人物の心情変化を読み解く。 	<p>古文の重要古語や文語文法(助動詞・敬語)の基本を理解し、漢文の訓読に必要な句法や返り点の規則を正しく把握している。</p>	<p>随筆・評論・史伝の各ジャンルの特徴を踏まえ、古典特有の表現や修辞技法に注意しながら、文章の内容を的確に読み取っている。</p>	<p>登場人物の心情や作者の意図を積極的に考察し、古典作品の価値について自分の考えを深めようとしている。</p>	4月～5月・中間考査
<p>日記文学</p> <ul style="list-style-type: none"> うつろひたる菊(蜻蛉日記) 薫る香に(和泉式部日記) <p>史伝</p> <ul style="list-style-type: none"> 雨舂(史記) 風蕭蕭として易水寒し 図窮まりて匕首見 	<p>【日記文学「蜻蛉日記」】</p> <ul style="list-style-type: none"> 兼家との関係変化と贈答歌に込められた心情を読み取る。 <p>【日記文学「和泉式部日記」】</p> <ul style="list-style-type: none"> 和歌の比喩表現と修辞技法を理解する。 <p>【史伝「雨舂列伝」】</p> <ul style="list-style-type: none"> 易水の送別と暗殺場面から史伝の緊迫した描写を学ぶ。 	<p>日記文学に特有の歌謡表現や和歌の修辞技法を理解し、漢文では史伝特有の語彙や句法を正しく読解できる。</p>	<p>贈答歌に込められた心情や、史伝における緊迫した場面描写を、文脈を踏まえて的確に読み取り、解釈している。</p>	<p>作者や登場人物の心情を深く理解しようとし、作品の時代背景や文学史的意義について関心をもって学習に取り組んでいる。</p>	5月～7月・期末考査
<p>物語</p> <ul style="list-style-type: none"> 須磨(源氏物語) 紫の上の死(源氏物語) <p>文章</p> <ul style="list-style-type: none"> 師説(健愈) 	<p>【物語「源氏物語・須磨」】</p> <ul style="list-style-type: none"> 都落ちの悲哀と白居易の詩の引用効果を考察する。 <p>【物語「源氏物語・紫の上の死」】</p> <ul style="list-style-type: none"> 無常観と愛の深さ、光源氏の喪失感を読み解く。 <p>【文章「師説」】</p> <ul style="list-style-type: none"> 健愈の論理展開を整理し、学びの本質を考察する。 	<p>物語文学の歌謡体系や引用表現を理解し、漢文では論説文の論理構造を把握するための句法知識を活用している。</p>	<p>源氏物語の文学的価値や漢詩の引用効果を考察し、作品の背景や時代状況を踏まえた深い解釈を行っている。</p>	<p>無常観や人生観など、作品に込められた思想や価値観を考察し、現代に通じる普遍的な意義を見出そうとしている。</p>	9月～10月・中間考査
<p>総合問題演習Ⅰ</p> <ul style="list-style-type: none"> 入試問題演習Ⅰ 入試問題演習Ⅱ 	<p>【総合問題演習Ⅰ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文法事項を総復習し、共通テスト形式の演習を行う。 <p>【入試問題演習Ⅰ・Ⅱ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々なジャンルの入試問題に取り組み、出題傾向を把握する。 記述式問題への対応力を高める。 	<p>これまで学習した文語文法・漢文句法の知識を総合的に活用し、入試問題形式の演習において正確に解答できる。</p>	<p>共通テストや各大学入試の出題意図を的確に捉え、設問の要求に応じた適切な解答を論理的に導き出している。</p>	<p>演習を通じて自己の弱点を分析し、克服に向けて粘り強く取り組むとともに、学習方法を工夫しようとしている。</p>	10月～12月・期末考査
<p>総合入試問題演習Ⅱ</p> <ul style="list-style-type: none"> 入試問題演習Ⅲ 	<p>【総合入試問題演習Ⅱ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実践的演習で時間配分と解答戦略を身につける。 <p>【入試問題演習Ⅲ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 難関レベルの問題に挑戦し、総合的な読解力を養成する。 	<p>高校3年間で習得した古典の知識・技能を総合的に活用し、初見の文章でも正確に読解できる力を身につけている。</p>	<p>難関大学レベルの複雑な文章構造や高度な表現を、論理的に分析し、制限時間内の確かな解答を導き出している。</p>	<p>入試本番に向けて計画的に学習を進め、これまでの学びを振り返りながら、主体的に古典の力を高めようとしている。</p>	1月～3月

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	国語	履修学年	3	教科書(出版社)	探求 論理国語(桐原書店)、文学国語(筑摩書房)
科目	国語演習	必修・選択	必修選択	副教材等	読解トレーニング 古典の演習3 (啓隆社)
単位数	2				

1 学習の到達目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。</p> <p>(2)生涯にわたる社会生活にえける他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。</p> <p>(3)言葉がもつ価値への認識を高めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての時間をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。</p>

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めている。	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のもの見方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
【古文】 文法確認と読解演習Ⅰ ・助動詞・助詞の識別 ・敬語法の確認 説話(宇治拾遺物語・古今著聞集) 日記(更級日記・蜻蛉日記) 随筆(徒然草・枕草子)	古典読解の基礎となる力を身に付ける。古文における基本文法(用言活用・助動詞・助詞等)を復習しながら、説話・物語・随筆・日記といった主要ジャンルの作品を読み解き、古典独特の表現方法や文脈理解の技能を習得する。	古文の基本文法(助動詞・助詞の識別、敬語法)を正確に理解し、説話・日記・随筆などの古典作品を読解するために必要な文語のきまりを身につけている。	「読むこと」において、説話・日記・随筆の文章構成や展開を把握し、登場人物の心情や作者の意図的確に読み取るとともに、古典特有の表現技法を評価している。	古文の基礎的な文法事項を確認しながら、説話・日記・随筆などの古典作品に積極的に取り組み、古典独特の表現や文脈を理解しようとしている。	4月 5月 ・中間考査
【古文・漢文】 文法確認と読解演習Ⅱ ・和歌修辞法・敬語総合 ・漢文句法(再読文字・使役・受身) 物語(源氏物語・大鏡) 歌物語(伊勢物語) 漢文(史記・十八史略)	古文の読解力をさらに深め、漢文の基礎を確認する。歴史物語・和歌といった古文の多様なジャンルに触れながら、漢文の重要句法(再読文字・使役・受身・否定・疑問反語等)を学び、故事・寓話を素材とした漢文読解に挑戦する。	和歌の修辞法(掛詞・縁語・枕詞等)や敬語の総合的な理解を深め、漢文の基本句法(再読文字・使役・受身・否定等)を正確に習得している。	「読むこと」において、物語・歌物語の登場人物の関係性や心情の変化を読み取り、漢文では故事の教訓や寓意を的確に解釈している。	古文の多様なジャンル(物語・歌物語)と漢文の基礎的な作品に進んで取り組み、和歌や漢詩の表現の美しさを味わおうとしている。	5月 7月 ・期末考査
【発展】 入試実戦演習Ⅰ ・図表・資料問題演習 ・会話形式問題演習 軍記物語(平家物語) 紀行文(奥の細道) 漢文(論語・孟子・荘子)	古文・漢文を総合的に読み解く力を向上させる。軍記物語・紀行文などの古文作品と、思想・詩文などの漢文を教材として、複雑な文章構成や高度な表現技法への理解を深め、入試に対応できる実践力を培う。	軍記物語・紀行文の文体的特徴を理解し、漢文では思想書・詩文の読解に必要な句法や語彙を身につけている。	「読むこと」において、図表・資料を活用した問題や会話形式の問題に対応し、複数の情報を統合して文章の内容を的確に解釈している。	入試に向けた実戦的な演習に積極的に取り組み、多様な出題形式に対応しながら、古典作品の読解力を高めようとしている。	9月 10月 ・中間考査
【発展】 入試実戦演習Ⅱ ・記述式問題演習 ・総合問題演習 日記(紫式部日記・和泉式部日記) 評論(無名草子・玉勝間) 漢文(韓非子・老子)	古文・漢文の総合演習により、入試に向けた基盤を構築する。多様な出題パターンに対応するため、複合的な問題演習を行い、文章全体の構造を的確に捉えながら設問に正確に答える技能を身につける。	日記文学・評論の文体的特徴を理解し、漢文では諸子百家の思想を読み解くために必要な知識・技能を身につけている。	「読むこと」において、記述式問題に対応し、文章全体の論理構成を把握しながら、根拠に基づいた解答を作成している。	総合的な問題演習に粘り強く取り組み、多角的な視点から古典作品を考察し、自らの読解力を向上させようとしている。	10月 12月 ・期末考査
【総合】 入試過去問演習 ・共通テスト形式演習 ・国公立二次・私大入試演習 古文総合読解 漢文総合読解 融合問題演習	大学入試共通テスト・記述式問題に対応する力を仕上げる。過去の入試問題を活用した演習を積み重ね、時間管理と解答精度の向上を図るとともに、記述式問題における論理的で的確な解答を作成する能力を完成させる。	共通テスト・二次試験に対応するために必要な古文・漢文の総合的な知識・技能を習得し、実践的に活用できるようになっている。	「読むこと」において、制限時間内に複合的な問題を解き、古文・漢文の融合問題にも対応しながら、論理的で的確な解答を導き出している。	入試本番を見据えた過去問演習に主体的に取り組む、時間配分を意識しながら、古典読解の総仕上げに努めている。	1月 3月 ・学年末考査

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	国語	履修学年	3	教科書(出版社)	高等学校 古典探究(数研出版)
科目	古典探究演習	必修・選択	自由選択	副教材等	四訂版 Key&Point古文単語330(いわずな書店)、九訂版 体系古典文法(数研出版)、〈四訂版〉共通テスト対策古典完答22(尚文出版)、三訂版 体系漢文(数研出版)、新訂版 最新国語便覧(浜島書店)、基礎からのジャンプアップノート 漢文句法 演習ドリル 三訂版(旺文社)
単位数	2				

1 学習の到達目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。</p> <p>(2)生涯にわたる社会生活に他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。</p> <p>(3)言葉がもつ価値への認識を高めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての時間をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。</p>
--

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めている。	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のもの見方、考え方の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
共通テスト基礎演習Ⅰ 古文読解基礎演習 重要文法事項確認 大鏡 徒然草 論語(漢文基礎)	共通テストで求められる古典の読解力を効率的に養成する。理系科目に学習時間を確保しながら、古文・漢文の基礎文法と頻出語彙を短期集中で定着させる。大鏡・徒然草などの頻出作品を通じて、共通テスト形式の問題に対応できる読解スキルを身につける。限られた時間で最大の効果を得るため、重要事項に絞った効率的な学習を行う。	共通テストで必要とされる古典文法・漢文句法の基礎知識を効率的に習得している。限られた学習時間の中で、頻出事項を優先的に理解し、理系科目との学習バランスを考慮しながら知識の定着を図っている。	「読むこと」において、共通テスト形式の問題に対応するため、本文の要点を短時間で正確に把握し、設問の意図を読み取って効率的に解答を導く力を身につけている。	理系科目との学習バランスを意識しながら、古典学習に計画的に取り組み、共通テストでの目標点達成に向けて効率的な学習方法を追求しようとしている。	4月～5月・中間考査
共通テスト演習Ⅱ 漢文句法集中演習 古文読解効率化演習 枕草子 史記 十八史略 韓非子	漢文句法を集中的に学習し、共通テストでの高得点を狙う。理系学部では漢文の配点比率が高いため、句法の完全習得を目指す。古文については、効率的な読解法を習得し、短時間で正確に内容を把握する訓練を行う。枕草子・史記・十八史略などの頻出作品を題材に、設問パターンの分析と解答技術の向上を図る。	漢文句法を体系的に習得し、共通テストで高得点を取るための知識盤を確立している。古文の助動詞・敬語・係り結びなどの文法事項を、問題演習を通じて実践的に活用できる力を身につけている。	「読むこと」において、設問パターンを分析し、出題者の意図を素早く把握する力を養っている。古文・漢文それぞれの効率的な読解法を習得し、短時間で正確に内容を把握する判断力を高めている。	漢文での高得点獲得を目標に、句法の完全習得に向けて主体的に学習に取り組んでいる。苦手分野を自己分析し、効率的な復習計画を立てて実行しようとしている。	5月～7月・期末考査
共通テスト実践演習 時間配分訓練 漢文高得点対策 源氏物語(頻出箇所) 蜻蛉日記 貞観政要 孟子	共通テスト本番を想定した実践演習を行う。特に時間配分の訓練を重視し、古文20分・漢文15分の目標タイムで解答する力を養成する。漢文は満点を目指すし、古文は安定した得点を確保する戦略的なアプローチを身につける。源氏物語の頻出箇所や貞観政要・孟子など、出題可能性の高い作品を重点的に学習する。	共通テスト本番を想定した時間配分(古文20分・漢文15分)で解答するための知識と技能を習得している。漢文満点、古文安定得点という戦略的目標に向けて、必要な知識を実践的に活用できる。	「読むこと」において、本番形式の演習を通じて、時間内に正確な解答を導く力を養っている。選択肢の吟味や消去法など、共通テスト特有の解答技術を駆使して得点を最大化する判断力を身につけている。	時間配分を意識した実践演習に積極的に取り組み、本番での得点最大化に向けて自己の解答プロセスを振り返り、改善しようとしている。理系科目への学習時間確保を念頭に、効率的な古典学習を実践している。	9月～10月・中間考査
共通テスト直前演習Ⅰ 過去問演習(本試・追試) 漢文満点対策 予想問題演習 弱点補強演習	共通テスト過去問(本試・追試)を徹底演習し、出題傾向と解答パターンを完全に把握する。漢文満点対策として、句法・語彙の最終確認と頻出漢字の読みを完成させる。予想問題演習を通じて実戦力を高め、個人の弱点を特定して集中的に補強する。理系科目との学習バランスを考慮した効率的な復習計画を立てる。	共通テスト過去問演習を通じて、出題傾向と解答パターンを完全に把握している。漢文満点に必要な句法・語彙・頻出漢字の読みを完成させ、古文の頻出文法事項を確実に定着させている。	「読むこと」において、過去問・予想問題の徹底演習を通じて、どのような問題形式にも対応できる実戦力を身につけている。自己の弱点を特定し、集中的に補強する判断力・実行力を発揮している。	共通テストでの目標点達成に向けて、弱点分析と補強を主体的に行っている。理系科目との学習バランスを考慮した効率的な復習計画を自ら立案・実行し、限られた時間で最大の成果を上げようとしている。	10月～12月・期末考査
共通テスト直前演習Ⅱ 最終確認演習 本番形式模擬演習 時間管理徹底訓練	共通テスト直前の最終仕上げを行う。本番形式の模擬演習を繰り返し、時間管理を徹底する。古典全体で35分以内で解答を完了し、見直し時間を確保する訓練を行う。頻出事項の最終確認と、本番でのメンタル管理・解答戦略を確立する。共通テスト後は、理系科目の二次対策に集中できるように、古典学習を完結させる。	共通テスト本番に向けて、古典の知識・技能を完成させている。本番形式の模擬演習を繰り返し、35分以内で古典全体を解答し見直し時間を確保できる実力を身につけている。	「読むこと」において、本番でのメンタル管理・解答戦略を確立している。時間配分の徹底、難問への対処法、得点を最大化するための解答順序など、実戦的な判断力を完成させている。	共通テスト本番での目標点達成に向けて、最後まで主体的に学習に取り組んでいる。共通テスト後は理系科目の二次対策に集中できるように、古典学習を計画的に完結させようとしている。	1月～3月・学年末考査

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	地理歴史	履修学年	3	教科書(出版社)	詳説世界史(山川出版社)
科目	世界史演習	必修・選択	必修選択	副教材等	ニューステージ世界史詳覧(浜島書店) 詳説世界史 10分間テスト(山川出版社) 世界史用語集(山川出版社)
単位数	2				

1 学習の到達目標

<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。</p>
--

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
<p>第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 3 東南アジア世界の形成と展開</p> <p>第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 1 イスラーム教の諸地域への伝播 2 西アジアの動向</p>	<p>①東南アジアの風土について他のアジアや日本と比較したうえで理解する。②東南アジアと南アジア・中国との関係を多面的・多角的に考察し表現する。③東南アジアにおける国家形成の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>①イスラーム化が中央アジアにもたらした変化について理解している。②南アジアにおいてイスラーム教が受け入れられていった経緯を理解している。③アフリカにおいてイスラーム化が進んだ要因を考察し表現している。</p>	<p>東南アジアの大陸部と諸島部において、どのように国家が形成されたのかを理解している。</p> <p>イスラーム教がどのように成立し、短期間で勢力を拡大していったのかを理解している。</p>	<p>東南アジアの風土や地形をふまえたうえで、南アジアや中国との関係およびその変遷を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>イスラーム政権の拡大を示す地図やアラバスクなどの図像資料などをもちに、イスラーム教の成立が西アジアや北アフリカの社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。</p>	<p>東南アジアの諸国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p> <p>イスラーム教の成立と拡大について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	4月～5月・中間考査
<p>第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 1 アジア諸地域の自立化と宋 2 モンゴルの大帝国</p> <p>第9章 大交易・大交流の時代 1 アジア交易世界の興隆</p>	<p>①モンゴル帝国による支配が東アジアにおよぼした影響について理解する。②モンゴル帝国解体の要因を理解する。③ティムール朝がモンゴル帝国から受け継いだものを多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>①明朝初期の国内統治の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。②明代後期の中国の社会・経済・文化と世界の商業の活発化との関係を多面的・多角的に考察し表現する。③16世紀の東南アジアで台頭した新興勢力の共通点を理解する。</p>	<p>モンゴル帝国がどのように成立し、解体したのか、そして帝国の支配は社会にどのような影響を与えたのかを理解している。</p> <p>「世界の一体化」が始まった時期のアジアにおいて、どのような動きがあったのかを理解している。</p>	<p>モンゴル帝国の最大領域を示す地図や「混一疆理歴代国都之図」などの図像資料をもとに、モンゴル帝国の成立世界史的な意義を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>「南蛮屏風」などの図像資料や鄭暁『今言』などの資料をもとに、この時期のアジア内およびアジアと世界の交流を多面的・多角的に考察し表現している。</p>	<p>モンゴル帝国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p> <p>アジア交易世界について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	5月～7月・期末考査
<p>10章 アジアの諸帝国の繁栄 1 オスマン帝国とサファヴィー朝 2 ムガル帝国の興隆 3 清代の中国と隣接諸地域</p> <p>第14章 アジア諸地域の動揺 1 西アジア地域の変容 2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの激動</p>	<p>①清朝の領土に組み込まれた民族と、彼らがどのように統治されていたかを理解する。②清代における周辺諸国と中国との関係について、明代と比較したうえで多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>①ヨーロッパ各国の東インド会社が南アジアでおこなった活動の状況を理解する。②イギリス東インド会社の機能の変化を多面的・多角的に考察し表現する。③東南アジアの植民地化の経緯を理解する。</p>	<p>清朝の基礎が築かれた経緯や清代の政治と社会の特徴および周辺諸国との関係について理解している。</p> <p>ヨーロッパ各国による南アジアと東南アジアの植民地化の経緯を理解している。</p>	<p>皇帝を描いた図像資料や『康熙帝伝』などの資料をもとに、清代の皇帝と従来の中国王朝の皇帝との違いを多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>東南アジアの植民地化の地図やゴムのプランテーションを示した図像資料をもとに、ヨーロッパ各国の進出の経緯をふまえ、南アジアと東南アジアにおける植民地化と世界経済の関係を多面的・多角的に考察し表現している。</p>	<p>清代の中国と隣接諸地域について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p> <p>南アジア・東南アジアの植民地化について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	7月～10月・中間考査
<p>第18章 冷戦と第三世界の台頭 1 冷戦の展開 2 第三世界の台頭とキューバ危機 3 冷戦体制の動揺</p> <p>第19章 冷戦の終結と今日の世界 1 産業構造の変容 2 冷戦の終結 3 今日の世界 4 現代文明の諸相</p>	<p>①米ソそれぞれの同盟網の広がりや核開発競争の経緯を理解する。②冷戦の進展がアメリカ社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。③スターリン死後のソ連と東欧における変化を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>①1970年代後半から80年代前半において米ソがそれぞれ追求した対外政策の内容を理解する。②東西対立の緩和が東アジアやアフリカなど諸地域にもたらした影響を理解する。③ゴルバチョフの改革が挫折した原因を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	<p>冷戦がどのように進展したのかを、各国の社会に与えた影響や核開発の動きなどとあわせて理解している。</p> <p>冷戦がどのような過程をたどって終結したのかを理解している。</p>	<p>先進国の平均経済成長率を示した統計資料や「スターリン批判」などの資料をもとに、冷戦下における東西両陣営の社会の変容を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>1990年後の各地の様子を写した図像資料などをもちに、さまざまな出来事と東西対立緩和の関係を多面的・多角的に考察し表現している。</p>	<p>冷戦の展開について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p> <p>冷戦の終結について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	10月～12月・期末考査

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	地理歴史	履修学年	3	教科書(出版社)	詳説世界史(山川出版社)
科目	世界史探究	必修・選択	必修選択	副教材等	ニューステージ世界史詳覧(浜島書店) 詳説世界史 10分間テスト(山川出版社) 世界史用語集(山川出版社)
単位数	5				

1 学習の到達目標

社会的事象の歴史的新見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開 2 東ヨーロッパ世界の展開 3 西ヨーロッパ世界の変容 4 西ヨーロッパの中世文化 第9章 大交易・大交流の時代 2 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容	①封建社会が解体に向かった背景を多面的・多角的に考察し表現する。②教皇権の衰退と王権の伸張の関係について理解する。③スペインで国王による中央集権化が早く進んだのはなぜか理解する。 ①ヨーロッパの人々が遠洋に乗り出していった動機や背景を多面的・多角的に考察し表現する。②ヨーロッパの人々の進出がアジアにもたらした影響や変化を理解する。③中南米の先住民が短期間でスペイン人に征服された要因を理解する。	封建社会の衰退と教皇権の衰退の過程および中央集権国家に向けた西ヨーロッパ各国の動きを理解している。 ヨーロッパの海洋進出について、その動機や背景、経緯を理解している。	大憲章や金印勅書などの資料をもとに、中央集権国家の形成に向けた各国の動きの共通点と相違点を多面的・多角的に考察し表現している。 ヨーロッパ人による航海と探検を示す地図やラス＝カサス『インディアスの破壊についての簡潔な報告』などの資料をもとに、ヨーロッパの海洋進出が諸地域にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現している。	西ヨーロッパ世界の変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見直しを持って学習に取り組もうとしている。 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見直しを持って学習に取り組もうとしている。	4月～5月・中間考査
第11章 近世ヨーロッパ世界の動向 1 ルネサンス 2 宗教改革 3 主権国家体制の成立 4 オランダ・イギリス・フランスの台頭 5 北欧・東欧の動向 6 科学革命と啓蒙思想 第12章 産業革命と環大西洋革命 1 産業革命 2 アメリカ合衆国の独立と発展 3 フランス革命とナポレオンの支配 4 中南米諸国の独立	①主権国家体制の成立の経緯を多面的・多角的に考察し表現する。②16世紀後半のスペイン・イギリス・フランスの関係を理解する。③アウクスブルクの和議とウェストファリア条約の異なる点を理解する。 ①革命中のフランス国家体制の変遷や革命が諸外国に与えた影響を理解する。②人権宣言とアメリカ独立宣言を比較し、共通点と相違点を理解する。③ナポレオンの支配に対する人々の反応を多面的・多角的に考察し表現する。	主権国家および主権国家体制の成立について、それまでのヨーロッパの状況と比較したうえで理解している。 フランス革命が起こった要因やナポレオンが台頭した背景を理解している。	ウェストファリア条約の内容や当時の戦争の様子を示す図像資料をもとに、主権国家体制の成立と戦争の関係を多面的・多角的に考察し表現している。 「旧体制」の風刺画などの図像資料や人権宣言などの資料をもとに、フランス革命において「国民」を主役とする社会が創出されたことについて、多面的・多角的に考察し表現している。	主権国家体制の成立について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見直しを持って学習に取り組もうとしている。 フランス革命とナポレオンについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見直しを持って学習に取り組もうとしている。	6月～7月・期末考査
第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 1 ウィーン体制 2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成 3 アメリカ合衆国の発展 4 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄 第14章 アジア諸地域の動揺 1 西アジア地域の変容 2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの激動	①ウィーン会議の参加者たちがどのような国際秩序をめざしていたかを理解する。②ウィーン体制を動揺させた要因を多面的・多角的に考察し表現する。③19世紀イギリスの政治変革の特徴について、大陸諸国と比較したうえで理解する。 ①清朝の危機の要因を多面的・多角的に考察し表現する。②清朝による国内秩序の再建の試みについて、その成果と課題を理解する。③欧米諸国の進出と日本の台頭が東アジア諸国間の関係に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	19世紀前半のヨーロッパ情勢がどのように推移したのかを、ウィーン体制や1848年革命、さまざまな主義主張の特徴とあわせて理解している。 欧米諸国の進出の経緯と東アジア諸国の改革の試みの成果や課題を理解している。	ウィーン会議後のヨーロッパを示す地図や会議を風刺した図像資料などをもとに、ウィーン会議がヨーロッパ各地の人々に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 アヘン戦争を描いた図像資料、東アジアの開港場を示した地図などをもとに、この時期の東アジア国際秩序の変容について多面的・多角的に考察し表現している。	ウィーン体制について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見直しを持って学習に取り組もうとしている。 東アジアの激動について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見直しを持って学習に取り組もうとしている。	7月～10月・中間考査
第15章 帝国主義とアジアの民族運動 1 第2次産業革命と帝国主義 2 列強の世界分割と列強体制の二分化 3 アジア諸国の変革と民族運動 第16章 第一次世界大戦と世界の変容 1 第一次世界大戦とロシア革命 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3 アジア・アフリカ地域の民族運動 第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊 2 第二次世界大戦 3 新しい国際秩序の形成	①列強の植民地化によるアフリカの社会や文化の変容を多面的・多角的に考察し表現する。②列強による太平洋地域の植民地化の経緯を理解する。③20世紀初頭における列強体制の枠組みの変化を多面的・多角的に考察し表現する。 ①バルカン半島で緊張が高まった背景を理解する。②歴史上はじめての世界大戦が勃発した原因を多面的・多角的に考察し表現する。③戦時外交および総力戦の特徴を理解する。④第一次世界大戦がもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ①ヨーロッパにおける第二次世界大戦の展開を理解する。②独逸および太平洋戦争の開戦が第二次世界大戦にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。③第一次世界大戦と比較したうえで、第二次世界大戦の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。	列強による世界分割がどのように進められたかや列強体制の変化について理解している。 第一次世界大戦とロシア革命がどのように展開したのかを、戦時外交や総力戦の特徴、大戦のもたらした結果などとあわせて理解している。 第二次世界大戦の対立の構図と勃発から終戦までの経緯を理解する。	列強の植民地・勢力圏を示した地図や帝国主義を風刺した図像資料をもとに、列強による世界分割が各地に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 壕壕戦や新兵兵、軍需工場働く女性の図などの第一次世界大戦に関する図像資料および「平和に関する布告」などの資料をもとに、第一次世界大戦とロシア革命が世界にもたらした変容を多面的・多角的に考察し表現している。 戦場を写した図像資料や「大西海憲章」などの資料をもとに、第二次世界大戦の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。	列強の世界分割について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見直しを持って学習に取り組もうとしている。 第一次世界大戦とロシア革命について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見直しを持って学習に取り組もうとしている。 第二次世界大戦について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見直しを持って学習に取り組もうとしている。	10月～12月・期末考査

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	地理歴史	履修学年	3	教科書(出版社)	新詳地理探究(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)
科目	地理探究	必修・選択	必修選択	副教材等	新詳地理資料COMPLETE2024(帝国書院) 27共通テスト実力トレーニング地理(啓隆社)
単位数	5				

1 学習の到達目標

<p>1 基本的な地理的知識・技能を定着する。</p> <p>2 習得した知識・技能を活用して思考力・判断力・表現力を身に付ける。</p> <p>3 主体的・積極的に学習し、地表面で展開される諸問題に対して主体的に考察し探究する姿勢を身に付ける。</p>

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
知識の習得や知識の理解、資料を正しく利用できる力を身に付けているか。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決してゆくための思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において主体的に学習に取り組んでいるか。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・ 考查
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
自然環境	地球上の地形や気候、生態系のメカニズムを学び、それが地球の課題とどのように関わっているかを考察する。	人間生活の舞台となる地表面における地形と気候の地域的な特色を形成する要因について理解している。地形・気候の地域的な特色と人間生活や自然災害の関係と実例について理解している。	人間生活の舞台となる地表面における地形と気候を構成する要因と各地で展開される人間生活との関わりや自然災害との関わりについて各地域の現状について多面的、多角的に考察し、地域的な特色を表現することができる。	人間生活の舞台となる地表面における地形と気候を構成する要因と各地で展開される人間生活との関わりや自然災害との関わりについて多面的、多角的に考察し、地域的な課題を取り上げるとともに、人間が自然と関わるかについての方法について手立てについて主体的に探究しようとしている。	4月～5月・ 中間 考查
資源と産業	現代社会における産業と資源・エネルギーの開発や産業の発達と地球の課題との関わりを考察する。	現代社会における産業と資源・エネルギーの開発や産業の発達についての各地の現状と地球の課題の関わりを理解している。	現代社会における人間が生み出してきた多様な産業と資源・エネルギーの開発について各地の現状を理解した上で、現代社会の地球の課題との関わりを多面的に考察し、表現することができる。	現代社会における産業と資源・エネルギーの開発や産業の発達に関わる地球の課題を自ら研究し、世界の諸地域の問題について積極的に考察し探究しようとしている。	5月～7月・ 期末 考查
交通・通信と観光・貿易 人口、村落・都市	交通・通信と観光、貿易、人口や村落・都市の発達が地球の課題とどのように関わっているかを考察する。	交通・通信と観光、貿易、人口や村落・都市の発達が地球の課題とどのように関わっているかを理解している。	交通・通信と観光、貿易、人口や村落・都市の発達の地域的な展開が地球の課題とどのように関わっているかを理解し、各地の現状と地球の課題との関わりを多面的に考察し、表現することができる。	交通・通信と観光、貿易、人口や村落・都市の発達の現状について理解し、それが地球の課題とどのように関わっているかを理解し、各地の現状と地球の課題との関わりを多面的に理解した上で世界の諸地域で発生している問題について自ら積極的に考察し深く探究しようとしている。	7月末～9月～10月・ 中間 考查
生活文化、民族・宗教	世界の人々の生活文化や民族・宗教には共通性や地域性について各地の地域的な特色と地球の課題とどのように関わっているかを考察する。	世界の人々の生活文化や民族・宗教には共通性や地域性について各地の地域的な特色と地球の課題とどのように関わっているかを考察することができる。	世界の人々の生活文化や民族・宗教には共通性や地域性について各地の地域的な特色と地球の課題とどのように関わっているかを理解し、地球の課題との関わりを多面的に考察し、表現することができる。	世界の人々の生活文化や民族・宗教には共通性や地域性について各地の地域的な特色と地球の課題とどのように関わっているかを自ら研究し、世界の諸地域の問題について積極的に考察しようとしている。	10月～12月・ 期末 考查
現代世界の地誌的考察	現代世界の地表面で展開される諸現象を地域的な枠組みでとらえ地誌的に考察する。	現代世界の地表面で展開される諸現象を地域的な枠組みの中で地域的な特色を地誌的に理解している。	現代世界の地表面で展開される諸現象の知識や技能を利用して各地域の特色を理解し、比較する中で地域的な課題を解決する方法を考案することができる。	主体的に現代世界の地表面で展開される地域的な課題を見つけ、他の地域との関わりの中で考察し探究する姿勢を有している。	10月～12月～3月・ 期末 考查

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	地理歴史	履修学年	3	教科書(出版社)	『詳説日本史 日本史探究』(山川出版社)
科目	日本史演習	必修・選択	必修選択	副教材等	『新詳日本史』(浜島書店) 『日本史用語集』(山川出版社) 『ゼミナール日本史』(浜島書店) 『詳録日本史史料集成』(第一学習社)
単位数	2				

1 学習の到達目標

現代の「日本」を形作る基盤として、長い年月の中で積み上げられてきた文化、伝統、遺産等があります。日本史を学ぶということは、それらのことを学習すると同時に、国際社会において主体的に生きる日本人としての資質を養うことでもあります。即ち、現代を生きる私たちの指針にしていくことにもつながっていくのです。以上のことを踏まえつつ、日本史を学んでいきます。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史とも関連づけながら総合的に捉えて理解し、諸資料をもとに効果的に調べて整理する技能を養成する。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象の意味や意義、伝統と文化の特色等を多面的・多角的に考察し、歴史に見られる諸課題の解決を視野に入れた構想をしつつ、効果的な説明や議論につなげていく能力を養成する。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、より良い社会の実現を目指して諸課題を主体的に学び探究しようとする態度を養うとともに、他国の人々、文化等を尊重することの自覚を深めさせる。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
第7章 武家社会の成長	南北朝の動乱期から室町幕府の成立と安定を経て、応仁の乱後国内の混乱に生じていく過程を学ぶ。また、室町時代における外交、経済、文化等の各分野をまとめる。問題演習も行うこととする。 ①室町幕府の成立 ②幕府の衰退と庶民の台頭 ③室町文化 ④戦国大名の登場	鎌倉幕府滅亡後の政治権力の推移、守護大名と戦国大名の権力の相違点、日明貿易の特色、多様な文化の形成等について諸資料から情報を読み取り理解する。	南北朝の動乱を経て、室町幕府の成立及びその政治組織、庶民の台頭による幕府権力の衰退、戦国時代への道筋等を諸資料をもとに考察する。	室町文化(北山・東山)の特色を現代の私たちの生活につながっている部分を検証し、主体的に学習する。また、室町時代全般にわたる庶民の動向を主体的に調べて理解する。	4月～5月・中間考査
第8章 近世の幕開け	大航海時代という世界的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出の影響を考察する。また、政治的には天下統一事業に向けた流れを理解し、同時代の文化的諸相をまとめる。問題演習も行うこととする。 ①織豊政権 ②桃山文化	織豊政権の特色や貿易、対外関係について理解する。また、桃山文化が幅広い国際性を持ちつつ、庶民の生活に溶け込んでいったことを諸資料より読み取る。	織豊政権の諸政策の目的や、ヨーロッパ諸国の進出がアジアに与えた影響等について多面的かつ多角的に考察する。	時代の転換に着目して、中世から近世の国家・社会の変容を様々な角度から考察し、主体的に通観して学ぶ。また、桃山文化の特色については、中世文化の特色と比較してその類似、差異を学ぶこととする。	6月～7月・期末考査
第9章 幕藩体制の成立と展開	江戸幕府の成立から元禄期に至るまでの政治・外交・経済・文化等の各分野について考察し整理する。問題演習も行うこととする。 ①幕藩体制の成立 ②幕藩社会の構造 ③幕政の安定 ④経済の発展 ⑤元禄文化	幕藩体制下の支配体制や封建的身分秩序の形成に関する諸資料より適切に情報を読み取り、江戸時代全体の構造を理解する。	戦乱のない時代が創出されたことの意義を踏まえ、人々の生活や意識がどのように変化したのかを多面的かつ多角的に考察する。	幕藩体制というしくみが、様々な階層の人々にとってどのような影響をもたらしたのか、その本質を諸資料をもとにしながら主体的に学ぶこととする。	7月～10月・中間考査
第10章 幕藩体制の動揺	江戸時代の三大改革、欧米諸国の東アジア進出による国際情勢の変化、爛熟した文化、経済活動の活発化等、江戸時代の中盤から後半の時代相を考察し、まとめる。問題演習も行うこととする。 ①幕政の改革 ②宝暦・天明期の文化 ③幕府の衰退と近代への道 ④化政文化	幕府、諸藩が抱える経済的窮乏等の実情を、改革を通していかに是正していかしたのか、また、列強の進出が迫る中で、どのような外交方針を立てて対処しようとしたのか等を諸資料をもとに考察し理解する。	幕藩体制の動揺を国際情勢の変化と影響等に関連させ、諸資料から読み取れる情報をもとに課題を見出し、主体的に学ぶこととする。	幕藩体制下の社会、経済のしくみの変化や幕府・諸藩の政策の変化について課題を見出し、主体的に追究し学ぶ。また、この時期に発生した文化が次の近代以降の文化にもたらす影響についても主体的に調べ考察する。	10月～12月・期末考査

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	地理歴史	履修学年	3	教科書(出版社)	『詳説日本史 日本史探究』(山川出版社)
科目	日本史探究	必修・選択	必修選択	副教材等	『新詳日本史』(浜島書店) 『日本史用語集』(山川出版社) 『ゼミナール日本史』(浜島書店) 『詳録日本史史料集成』(第一学習社)
単位数	5				

1 学習の到達目標

現代の「日本」を形作る基盤として、長い年月の中で積み上げられてきた文化、伝統、遺産等があります。日本史を学ぶということは、それらのことを学習すると同時に、国際社会において主体的に生きる日本人としての資質を養うことでもあります。即ち、現代を生きる私たちの指針にしておくことにもつながります。以上のことを踏まえつつ、日本史を学んでいます。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的に捉えて理解させ、諸資料をもとに効果的に調べて整理する技能を養成する。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象の意味や意義、伝統と文化の特色等を多面的・多角的に考察し、歴史に見られる諸課題の解決を視野に入れた構想をしつつ、効果的な説明や議論につなげていく能力を養成する。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、より良い社会の実現を目指して諸課題を主体的に学び探究しようとする態度を養うとともに、他国の人々、文化等を尊重することの自覚を深めさせる。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
第11章 近世から近代へ 第12章 近代国家の成立	①開国と幕末の動乱 ②幕府の滅亡と新政府の発足 ③明治維新と富国強兵 ④立憲国家の成立	・欧米諸国の進出により幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯を理解する。 ・明治政府による中央集権化の諸政策や明治初期の外交、文化等について理解する。 また、諸資料から自由民権運動の展開から憲法制定、立憲国家成立への過程を理解する。	・日本が直面していた国内外における諸課題を踏まえ、政治経済、外交等の諸側面の変化を多面的かつ多角的に考察し、近代社会の形成に向かうことを探究する。	・幕末から明治初期の政治、経済、外交、文化等各分野及び日本が近代国家の成立に向けて歩む歴史の流れを課題を見つけて主体的に学んでいく姿勢を身につける。	4月～5月・中間考査
第13章 近代国家の展開 第14章 近代の産業と生活	①日清戦争と国際関係 ②第一次世界大戦と日本 ③ワシントン体制 ④近代産業の発展 ⑤近代文化の発達 ⑥市民生活の変容と大衆文化	・日清、日露戦争前後の歴史的諸事象について諸資料から情報を読み取り、この戦争の様相や背景、日本の国際的地位の変化を理解する。 ・ベルサイユ体制からワシントン体制への枠組がもたらす民族運動や社会運動が起こった背景及び政党政治の成立について理解する。 ・諸資料より日本の産業革命の実態及びその結果としての社会の変容について理解する。 ・明治期における文化及び大正期における市民文化の特色を理解する。	・戦争が国民としての自覚や意識の高まりをもたらしたこと、また、日本の動向が近隣諸国にどのように受け止められたかを考察する。 ・近代産業の発展が社会にもたらした変化及び学校教育を通して変容する国民の意識を文化の諸事項と関連づけながら探究する。	・対外的な戦争が日本の近代化の過程の中で持った意味を考察し、主体的な探究に結びつける。 ・産業の発展とそれに伴う社会問題、当時の国際社会の特質を考察することで課題を見出し、主体的に調べ探究する。	6月～7月・期末考査
第15章 恐慌と第二次世界大戦 第16章 占領下の日本	①恐慌の時代 ②軍部の台頭 ③第二次世界大戦 ④占領と改革 ⑤冷戦の開始と講和	・戦前の日本と国際社会の関係を、政治・経済・外交等様々な視点から把握しつつ、軍部とのせめぎあいの中で次第にファシズム国家へと変容していく過程を理解する。 ・敗戦後の占領政策及びその後の政策転換が日本を自立する道につながっていくことを理解する。	・戦前の政治・経済・外交等の様々な歴史事象を、諸資料を駆使しながら、多面的かつ多角的に考察する力を養成する。 ・戦後の占領下から自立、独立していく日本の実相を当時の国際情勢と関連づけながら諸資料を読み解く力を養成する。	・戦前と戦後の日本の歴史事象が明確に異なる点を、自ら課題として見出し、主体的に調べて探究する。 ・世界で唯一の被爆国である日本の視点より平和学習への取り組みにつなげる。	7月～10月・中間考査
第17章 高度成長の時代 第18章 激動する世界と日本	①55年体制 ②経済復興から高度経済成長へ ③経済大国への道 ④冷戦の終結と日本社会の変容	保守合同による自民党の成立から、経済成長を背景とした安定した保守政権の誕生に至る経緯を、諸資料を踏まえて理解する。 ・高度経済成長後の日本の国内動向及び冷戦後の国際関係等を理解する。	・日ソ共同宣言、日韓基本条約、沖縄返還協定等の外交事象がもたらした課題を諸資料から多面的かつ多角的に考察し、表現する力を養成する。 ・高度経済成長による日本の復興及びバブル崩壊後の経済不況等の経済動向を諸資料から考察する力を養成する。	・55年体制の歴史的意義、独立後の国内政治について主体的に課題を見出して学習する。 ・冷戦終結後の国際社会において、日本がどのような役割を果たしてきたのか、また現にはたしているのかを主体的に探究する。	10月～12月・期末考査

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	地理歴史	履修学年	3	教科書(出版社)	新詳地理探究(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)
科目	地理演習	必修・選択	自由選択	副教材等	新詳地理資料COMPLETE2024(帝国書院) 27共通テスト実力トレーニング地理(啓隆社)
単位数	2				

1 学習の到達目標

<p>1 基本的な地理的知識・技能を定着する。</p> <p>2 習得した知識・技能を活用して思考力・判断力・表現力を身に付ける。</p> <p>3 主体的・積極的に学習し、地表面で展開される諸問題に対して主体的に考察し探究する姿勢を身に付ける。</p>

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
知識の習得や知識の理解、資料を正しく利用できる力を身に付けているか。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決してゆくための思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において主体的に学習に取り組んでいるか。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・ 考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
自然環境	地球上の地形や気候、生態系のメカニズムを学び、それが地球の課題とどのように関わっているかを考察する。	人間生活の舞台となる地表面における地形と気候の地域的な特色を形成する要因について理解している。地形・気候の地域的な特色と人間生活や自然災害の関係と実例について理解している。	人間生活の舞台となる地表面における地形と気候を構成する要因と各地で展開される人間生活との関わりや自然災害との関わりについて各地域の現状について多面的、多角的に考察し、地域的な特色を表現することができる。	人間生活の舞台となる地表面における地形と気候を構成する要因と各地で展開される人間生活との関わりや自然災害との関わりについて多面的、多角的に考察し、地域的な課題を取り上げるとともに、人間が自然と関わり合うことについての方法について手立てについて主体的に探究しようとしている。	4月～5月・ 中間考査
資源と産業	現代社会における産業と資源・エネルギーの開発や産業の発達と地球の課題との関わりを考察する。	現代社会における産業と資源・エネルギーの開発や産業の発達についての各地の現状と地球の課題の関わりを理解している。	現代社会における人間が生み出してきた多様な産業と資源・エネルギーの開発について各地の現状を理解した上で、現代社会の地球の課題との関わりを多面的に考察し、表現することができる。	現代社会における産業と資源・エネルギーの開発や産業の発達に関わる地球の課題を自ら研究し、世界の諸地域の問題について積極的に考察し探究しようとしている。	5月～7月・ 期末考査
交通・通信と観光・貿易 人口、村落・都市	交通・通信と観光、貿易、人口や村落・都市の発達が地球の課題とどのように関わっているかを考察する。	交通・通信と観光、貿易、人口や村落・都市の発達が地球の課題とどのように関わっているかを理解している。	交通・通信と観光、貿易、人口や村落・都市の発達の地域的な展開が地球の課題とどのように関わっているかを理解し、各地の現状と地球の課題との関わりを多面的に考察し、表現することができる。	交通・通信と観光、貿易、人口や村落・都市の発達の現状について理解し、それが地球の課題とどのように関わっているかを理解した上で世界の諸地域で発生している問題について自ら積極的に考察し深く探究しようとしている。	7月末～9月～10月・ 中間考査
生活文化、民族・宗教	世界の人々の生活文化や民族・宗教には共通性や地域性について各地の地域的な特色と地球の課題がどのように関わっているかを考察する。	世界の人々の生活文化や民族・宗教には共通性や地域性について各地の地域的な特色と地球の課題がどのように関わっているかを考察することができる。	世界の人々の生活文化や民族・宗教には共通性や地域性について各地の地域的な特色と地球の課題がどのように関わっているかを理解し、地球の課題との関わりを多面的に考察し、表現することができる。	世界の人々の生活文化や民族・宗教には共通性や地域性について各地の地域的な特色と地球の課題がどのように関わっているかを自ら研究し、世界の諸地域の問題について積極的に考察しようとしている。	10月～12月・ 期末考査
現代世界の地誌的考察	現代世界の地表面で展開される諸現象を地域的な枠組みでとらえ地誌的に考察する。	現代世界の地表面で展開される諸現象を地域的な枠組みの中で地域的な特色を地誌的に理解している。	現代世界の地表面で展開される諸現象の知識や技能を利用して各地域の特色を理解し、比較する中で地域的な課題を解決する方法を考案することができる。	主体的に現代世界の地表面で展開される地域的な課題を見つけ、他の地域との関わりの中で考察し探究する姿勢を有している。	10月～12月～3月・ 期末考査

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	公民	履修学年	3	教科書(出版社)	詳述政治・経済 (実教出版)
科目	政治・経済	必修・選択	必修選択	副教材等	最新図説 政経 (浜島書店)
単位数	2				

1 学習の到達目標

現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身につける。
--

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
現代社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論を理解する力や諸資料から情報を適切に調べまとめる技能。	政治・経済に関する概念や理論を活用し、複雑な課題を把握、説明したり、論拠にもとづき考察、構想する力、議論を通し公正に判断する力。	我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に積極的役割を果たす自覚や現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
現代日本の経済 1.経済社会の変容 2.現代経済のしくみ 3.現代経済と福祉の向上	経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みなどについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。	現代日本の経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し読み取る技能を身につけている。	経済活動や経済社会の変容とその課題について、よりよい社会の実現のための解決策を多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	現実社会の諸課題について主体的に追究して、経済社会の変容における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	4月～5月・中間考査
現代の国際経済 1.国際収支 2.国際経済体制の変化 3.グローバル化と金融危機 4.地域経済統合 5.地球環境とエネルギー 6.経済協力	貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。	現代の国際経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身につけている。	相互依存関係が深まる国際経済の特質や国際経済において果たすことが求められる日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	現実社会の諸課題について主体的に追究して、現代の国際経済における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	6月～7月・1学期 期末考査
現代の日本の政治 1.民主政治の基本原則 2.日本国憲法の基本的性格 3.日本の政治機構 4.現代日本の政治	政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。	現代日本の政治に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切に収集し、読み取る技能を身につけている。	政党政治などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	現実社会の諸課題について主体的に追究して、民主政治の基本原則における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	9月～10月・2学期 中間考査
現代の国際政治 1.国際政治と国際法 2.国際連合と国際協力 3.現代国際政治の動向 4.核兵器と軍縮 5.国際紛争と難民 6.国際政治と日本	国際社会の変遷、人権、国家主権、領土などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛、国際貢献について、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。	現代の国際政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身につけている。	国際社会の特質や国際法の果たす役割、国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	現実社会の諸課題について主体的に追究して、現代の国際政治における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	10月～12月・2学期 期末考査
現代日本および国際社会における諸課題の探究	現代日本および国際社会における政治・経済の諸課題について、習得した知識を活用して、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述させる。	現代日本および国際社会における政治・経済の諸課題について、習得した知識を活用したり、必要な情報を収集し、読み取り、まとめることができる。	取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述している。	現代日本における政治・経済の諸課題について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	1月～3月

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	公民	履修学年	3	教科書(出版社)	詳述政治・経済(実教出版)
科目	政治・経済	必修・選択	自由選択	副教材等	最新図説 政経(浜島書店) 2027公共, 政治・経済 実践攻略大学入学共通テスト問題集
単位数	2				

1 学習の到達目標

現代の諸課題を追及したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身につける。
--

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
現代社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論を理解する力や諸資料から情報を適切に調べまとめる技能。	政治・経済に関する概念や理論を活用し、複雑な課題を把握、説明したり、論拠にもとづき考察、構想する力、議論を通し公正に判断する力。	我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に積極的役割を果たす自覚や現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
現代日本の経済 1.経済社会の変容 2.現代経済のしくみ 3.現代経済と福祉の向上 共通テスト対策	経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みなどについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。 共通テストに向けた問題演習に取り組み、知識の定着と理解を深めさせる。	現代日本の経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し読み取る技能を身につけている。	経済活動や経済社会の変容とその課題について、よりよい社会の実現のための解決策を多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	現実社会の諸課題について主体的に追究して、経済社会の変容における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	4月～5月・中間考査
現代の国際経済 1.国際収支 2.国際経済体制の変化 3.グローバル化と金融危機 4.地域経済統合 5.地球環境とエネルギー 6.経済協力 共通テスト対策	貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協力の必要性や国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。 共通テストに向けた問題演習に取り組み、知識の定着と理解を深めさせる。	現代の国際経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身につけている。	相互依存関係が深まる国際経済の特質や国際経済において果たすことが求められる日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	現実社会の諸課題について主体的に追究して、現代の国際経済における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	6月～7月・1学期 期末考査
現代の日本の政治 1.民主政治の基本原則 2.日本国憲法の基本的性格 3.日本の政治機構 4.現代日本の政治 共通テスト対策	政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。 共通テストに向けた問題演習に取り組み、知識の定着と理解を深めさせる。	現代日本の政治に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身につけている。	政党政治などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	現実社会の諸課題について主体的に追究して、民主政治の基本原則における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	9月～10月・2学期 中間考査
現代の国際政治 1.国際政治と国際法 2.国際連合と国際協力 3.現代国際政治の動向 4.核兵器と軍縮 5.国際紛争と難民 6.国際政治と日本 共通テスト対策	国際社会の変遷、人権、国家主権、領土などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛、国際貢献について、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。 共通テストに向けた問題演習に取り組み、知識の定着と理解を深めさせる。	現代の国際政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身につけている。	国際社会の特質や国際法の果たす役割、国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	現実社会の諸課題について主体的に追究して、現代の国際政治における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	10月～12月・2学期 期末考査
現代日本および国際社会における諸課題の探究	現代日本および国際社会における政治・経済の諸課題について、習得した知識を活用して、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述させる。 大学入試問題の演習に取り組み、知識の定着と理解を深めさせる。	現代日本および国際社会における政治・経済の諸課題について、習得した知識を活用して、必要な情報を収集し、読み取り、まとめることができる。	取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述している。	現代日本における政治・経済の諸課題について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	1月～3月

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	公民	履修学年	3	教科書(出版社)	詳述政治・経済(実教出版)
科目	政治・経済演習	必修・選択	自由選択	副教材等	最新図説 政経(浜島書店) 2027公共、政治・経済 実践攻略 大学入学共通テスト問題集(実教出版)
単位数	2				

1 学習の到達目標

現代の諸課題を追及したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身につける。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
現代社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論を理解する力や諸資料から情報を適切に調べまとめる技能。	政治・経済に関する概念や理論を活用し、複雑な課題を把握、説明したり、論拠にもとづき考察、構想する力、議論を通し公正に判断する力。	我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に積極的役割を果たす自覚や現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・ <small>・</small> 考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
現代の国際政治 1.国際政治と国際法 2.国際連合と国際協力 3.現代国際政治の動向 4.核兵器と軍縮 5.国際紛争と難民 6.国際政治と日本 各分野の共通テスト演習	問題演習も含めて国際社会の変遷、人権、国家主権、領土などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛、国際貢献について、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。	現代の国際政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身につけている。	国際社会の特質や国際法の果たす役割、国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	現実社会の諸課題について主体的に追究して、現代の国際政治における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	4月 5月・1学期 中間考査
現代の国際経済 1.国際収支 2.国際経済体制の変化 3.グローバル化と金融危機 4.地域経済統合 5.地球環境とエネルギー 6.経済協力 各分野の共通テスト演習	問題演習も含めて貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。	現代の国際経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身につけている。	相互依存関係が深まる国際経済の特質や国際経済において果たすことが求められる日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	現実社会の諸課題について主体的に追究して、現代の国際経済における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	5月 7月・1学期 期末考査
現代の日本の政治 1.民主政治の基本原則 2.日本国憲法の基本的性格 3.日本の政治機構 4.現代日本の政治 各分野の共通テスト演習	問題演習も含めて政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。	現代日本の政治に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身につけている。	政党政治などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	現実社会の諸課題について主体的に追究して、民主政治の基本原則における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	9月 10月・2学期 中間考査
現代日本および国際社会における諸課題の探究 共通テスト対策	現代日本および国際社会における政治・経済の諸課題について、問題演習を通じて多面的・多角的に考察し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述させる。 共通テストなど大学入試に向けた問題演習に取り組ませる。	現代日本および国際社会における政治・経済の諸課題について、習得した知識を活用したり、必要な情報を読み取り、まとめることができる。	課題の解決に向けて政治と経済それぞれの分野だけでなく、両者を関連させて多面的・多角的に考察し、意欲的に学習している。	現代日本における政治・経済の諸課題について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	10月 12月・2学期 期末考査
共通テスト対策	共通テスト、私大個別学力試験など大学入試に向けた問題演習に取り組ませる。	これまでの授業で習得した知識を活用したり、必要な情報を収集し、読み取り、まとめることができる。	政治と経済の諸問題を多面的・多角的に考察できる。	自分の進路に向け、学習課題を主体的に解決しようとしている。	1月 3月

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	数学	履修学年	3	教科書(出版社)	高等学校 数学Ⅲ (数研出版)
科目	数学Ⅲ	必修・選択	必修	副教材等	教科書併用問題集「4プロセス数学Ⅲ+C(複素数平面、式と曲線)」(数研出版) 入試問題集「クリアー数学演習Ⅲ・C(複素数平面、式と曲線)」(数研出版) 参考書「チャート式基礎からの数学Ⅲ+C(複素数平面、式と曲線)」(数研出版)
単位数	5				

1 学習の到達目標

極限や微分法及び積分法について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
--

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
極限、微分法、積分法について基本的な概念や原理法則を体系的に理解し、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力。いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考查
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
※「第1章 関数」「第2章 極限」は、第2学年「数学Ⅱ」において、「微分と積分」の関連事項として習得済である。 第3章 微分法 第1節 導関数 第2節 いろいろな関数の導関数 第4章 微分法的应用 第1節 導関数の应用 第2節 いろいろな应用	第3章 ・微分係数と導関数 ・導関数の計算 ・いろいろな関数の導関数 ・第n次導関数 ・曲線の方程式と導関数 第4章 ・接線の方程式 ・平均値の定理 ・関数の値の変化 ・関数のグラフ ・方程式、不等式への応用 ・速度と加速度 ・近似式	・定義にしたがって微分係数や導関数を求めることができる。 ・積商の微分法、合成関数及び逆関数の微分法を用いることができる。 ・三角関数や指数・対数関数などさまざまな関数を含む関数の導関数を求めることができる。 ・陰関数や媒介変数表示されている関数からdy/dxを求めることができる。 ・接線の方程式を求められる。 ・平均値の定理の図形的な意味を理解している。 ・導関数を利用したり極限値を求めたりして関数の増減や曲線の凹凸、変曲点、漸近線などを調べられる。 ・直線及び平面上の点の速度や加速度を求めることができる。 ・1次近似式をつくることことができる。	・連続性や微分可能性を具体的な関数を用いて考察できる。 ・これまで学んだ公式を利用して新たな公式を導くことができる。 ・log x の導関数について、それを考える理由とともに理解し、導関数の計算ができる。 ・第n次導関数を求められる。 ・平均値の定理を利用して不等式を証明したり極限値を求めたりできる。 ・微分不可能な点でも極値をもつことを理解し、極値を求めることができる。 ・導関数を利用したり極限値を求めたりしてグラフの概形をかける。 ・グラフを利用して方程式の解について考察したり不等式の証明に利用することことができる。 ・1次近似式を利用して近似値を求めることことができる。	・連続だが微分可能でない関数があることに興味をもつ。 ・xのα乗の微分がαの範囲を自然数、整数、有理数と拡張されていくことに興味をもち、その展開について理解を深めようとする。また、積極的に活用しようとする。 ・ネイピア数eの定義や指数・対数関数の微分について興味をもつ。 ・接線や法線の方程式を、様々な導関数を活用して求めようとする。 ・関数の増減の様子を調べるのに、導関数を積極的に活用しようとする。また、導関数だけでなく連続性や微分可能性、極値の定義などにも注意して、増減を丁寧に調べようとする。 ・関数のグラフの様々な形に興味をもち、様々な方法で調べようとする。	4月～5月・中間考查
第5章 積分法とその応用 第1節 不定積分 第2節 定積分 第3節 積分法的应用	第5章 ・不定積分とその基本性質 ・不定積分の置換積分法と部分積分法 ・いろいろな関数の不定積分 ・定積分とその基本性質 ・定積分の置換積分法と部分積分法 ・定積分のいろいろな問題 ・面積 ・体積 ・道のり ・曲線の長さ	・xのα乗や三角・指数・対数関数の不定積分を求めることができる。 ・合成関数の微分の逆演算として置換積分法を理解し、正しく適用できる。 ・積の微分の逆演算として部分積分法を理解し、不定積分を求められる。 ・定積分と面積の関係を理解している。 ・定積分の置換積分法及び部分積分法を理解し、定積分を求められる。 ・数列の和の極限を定積分を用いて求めることができる。 ・関数の大小と定積分の大小の関係を利用したり、定積分を図形の面積とみたりして、不等式の証明ができる。 ・定積分を用いて面積を求めたり、回転体の体積を求められる。 ・直線及び平面上の曲線上を点が動くときの道のり(長さ)を求めることことができる。	・f(g(x))、g'(x)の関数の形に着目して式を見たり変形したりして、不定積分の計算ができる。 ・どの関数をf(x)、g(x)と考えるか、部分積分をするか、適切に判断できる。 ・∫(a ² -x ²)の定積分について、円の面積と関連付けて考察できる。 ・上端、下端にxを含む定積分を、xの関数と捉えて問題を解決できる。 ・定積分は定数であることを利用して、定積分を含む関数を求められる。 ・区分求積法について理解し、考察、説明ができる。 ・媒介変数表示された曲線で囲まれた図形の面積を求めることことができる。 ・立体の断面について考え、定積分を用いて体積を求めることことができる。 ・道のりを、v-tグラフで囲まれた部分の面積と関連付けて考察できる。	・簡単には不定積分や定積分が求められない関数について、置換積分法や部分積分法を用いて計算しようとする。 ・定積分を面積と関連付けて理解を深めようとする。 ・e・x・sin xの定積分に部分積分法を用いると同じ定積分が再び出てくることに興味をもち、その計算方法を考察しようとする。 ・sin ⁿ xの定積分に部分積分法を用いると漸化式が導かれることに興味をもち、その計算方法や計算結果について考察しようとする。 ・曲線で囲まれた部分の面積を、細長い長方形の面積の和の極限と捉えることに興味をもち、定積分と数列の和の極限との関係を探る際、対称性に着目して、計算を効率的に行おうとする。	5月～7月・期末考查
入試基礎問題演習	数学Ⅲや関連の深い数学Cの入試問題の基礎を演習し、解説する。 入試問題集「クリアー数学演習Ⅲ・C」の基本問題を定着させる。	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとする。	9月～10月・中間考查
入試標準問題演習	数学Ⅲや関連の深い数学Cの入試問題の基礎を演習し、解説する。 入試問題集「クリアー数学演習Ⅲ・C」の標準問題を定着させる。	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとする。	10月～12月・期末考查
入試標準問題演習	数学全範囲の融合問題を演習し、解説する。 志望大学の同レベルの入試問題が解けるような学力の向上を図る。	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとする。	1月～3月

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	数学	履修学年	3	教科書(出版社)	高等学校 数学C(数研出版)
科目	数学C(理系①)	必修・選択	必修	副教材等	教科書併用問題集「4プロセス数学Ⅲ+C(複素数平面、式と曲線)」(数研出版) 入試問題集「クリアー数学演習Ⅲ・C(複素数平面、式と曲線)」(数研出版) 参考書「チャート式基礎からの数学Ⅲ+C(複素数平面、式と曲線)」(数研出版)
単位数	2				

1 学習の到達目標

ベクトルや平面上の曲線と複素数平面について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を促し、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
--

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
ベクトルや平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようになる。	大きさや向きをもった量に着目し、演算方法やその図形的意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的に考察する力、数学的な表現も用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考查
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
※「第1章 平面上のベクトル」「第2章 空間のベクトル」は、第2学年「数学B」において、発展学習として習得済である。 第3章 複素数平面	第3章 ・複素数平面 ・複素数の極形式 ・ド・モアブルの定理 ・複素数と図形	・複素数の絶対値の定義を理解し、与えられた複素数の絶対値を求めることができる。 ・複素数の極形式について理解し、複素数を極形式で表すことができる。 ・ド・モアブルの定理を理解し、複素数の n 乗を求めることができる。 ・複素数の方程式について、その意味を考えたり計算したりすることで、表す図形を求めることができる。	・1つの複素数が複素数平面上で1つの点を表すことを理解し、点を複素数平面上に表すことができる。 ・共役複素数や $-z$ などを極形式でどのように表すか、その定義から考察できる。 ・複素数の n 乗根がちょうど n 個存在することを、極形式を用いて考察できる。 ・線分の内分点を表す複素数を活用して、線分の内分点や外分点を表す複素数や三角形の重心を表す複素数を求めることができる。	・複素数平面の定義から複素数の和、差や実数倍などが複素数平面上で何を意味するか自ら考察しようとする。 ・複素数が $a+bi$ とは別の形で表せることに興味をもち、それらの違いや共通点を自ら見出そうとする。 ・複素数の積の図形的な意味から、ド・モアブルの定理を自ら見出したり証明したりしようとする。 ・図形の問題を、複素数の演算の図形的意味を用いて積極的に考察しようとする。	4月～5月・中間考查
第4章 式と曲線 第1節 2次曲線 第2節 媒介変数表示と極座標	第4章 ・放物線 ・楕円 ・双曲線 ・2次曲線の平行移動 ・2次曲線と直線 ・2次曲線の性質 ・曲線の媒介変数表示 ・極座標と極方程式 ・コンピュータの利用	・放物線が、焦点と準線からの距離が等しい点の軌跡であることを理解している。 ・楕円が、2つの焦点からの距離の和が一定である点の軌跡であることを理解している。 ・双曲線が、2つの焦点からの距離の差が一定である点の軌跡であることを理解している。 ・ x, y の2次式を変形して、2次曲線の概形を考えることができる。 ・2次曲線の接線の方程式の一般形について理解し、接点が与えられたときに接線を求めることができる。 ・媒介変数表示された曲線の方程式を求めることができる。 ・点の座標について、直交座標と極座標を相互に変換できる。	・軌跡の考え方をを用いて、放物線の方程式を導くことができる。 ・軌跡の考え方をを用いて、楕円の方程式を導くことができる。 ・軌跡の考え方をを用いて、双曲線の方程式を導くことができる。 ・2次曲線と直線の共有点を連立方程式の解と捉え、共有点の個数について考察できる。 ・条件から点の座標を1つの文字で表し、それを曲線の媒介変数表示と捉えることで、その点が楕円・双曲線を求めることができる。 ・離心率 e についての条件から2次曲線の極方程式を求め、直交座標の方程式に変換するなどして考察できる。	・放物線を、条件を満たす点の軌跡として捉えなおそうとする。 ・焦点が y 軸上にある楕円の方程式について、焦点が x 軸上にある楕円をもとに考察しようとする。 ・双曲線の漸近線について、曲線が限りなく近づくことを確かめようとする。 ・曲線 $F(x-p, y-q)=0$ は曲線 $F(x, y)=0$ を平行移動したものであることを理解するとともに、複雑な方程式で表される2次曲線について、平行移動の考えを利用して調べようとする。 ・2次曲線の接線の方程式の一般形に興味をもち、自ら導出してみようとする。 ・曲線の媒介変数表示について、具体的に点をプロットしていくことで、どのような曲線が考察しようとする。 ・直交座標とは異なる方法で点の位置が表せることに興味をもち、それらの違いや共通点を自ら見出そうとする。	5月～7月・期末考查
入試基礎問題演習	共通テスト問題の過去問題や類題を演習し、解説を通して数学全範囲の総まとめをすることで、共通テスト問題を解くことができる学力を養う。	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身に付けている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身に付いている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとする。	9月～10月・中間考查
入試標準問題演習	共通テスト問題の過去問題や類題を演習し、解説を通して数学全範囲の総まとめをすることで、共通テスト問題を十分に解くことができる学力の定着を図る。	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身に付けている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身に付いている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとする。	10月～12月・期末考查
入試標準問題演習	数学全範囲の融合問題を演習し、解説する。志望大学の同レベルの問題が解けるような学力の向上を図る。	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身に付けている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身に付いている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとする。	1月～3月

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	数学	履修学年	3	教科書(出版社)	高等学校 数学Ⅰ(数研出版)、高等学校 数学Ⅱ(数研出版)、高等学校 数学A(数研出版)、高等学校 数学B(数研出版)、高等学校 数学C(数研出版)
科目	数学総合演習	必修・選択	必修	副教材等	入試問題集「キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C(ベクトル)」(数研出版) チャート式 基礎からの数学Ⅰ+A(数研出版) チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B+C(ベクトル)(数研出版)
単位数	5				

1 学習の到達目標

「数学Ⅰ」「数学A」「数学Ⅱ」「数学B」「数学C」の範囲の問題を演習し、大学入試の標準的な問題が解答できる能力を育てる。
--

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
基本的な概念や原理法則を体系的に理解し、数学的に処理する技能を身につける。	数量関係を深く捉えて事象を数学的に考察・判断し、適切に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用したり、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりしている。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考查
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
入試問題集「キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C(ベクトル)」 Check・Training問題	第8章 式と証明 第9章 複素数と方程式 第10章 図形と方程式 第11章 三角関数 第12章 指数・対数関数 第13章 微分法・積分法 上記分野におけるTrainingの演習と解説	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	4月～5月・中間考查
入試問題集「キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C(ベクトル)」 Check・Training問題	第14章 数列 第15章 統計的な推測 第16章 ベクトル 第1章 数と式(命題と集合) 第2章 2次関数 第3章 図形と計量 第4章 データの分析 第5章 場合の数と確率 上記分野におけるTrainingの演習と解説	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	6月～7月・期末考查
入試問題集「キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C(ベクトル)」 Challenge問題	第1章～第16章のChallengeの演習と解説	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	7月～10月・中間考查
入試問題集「キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C(ベクトル)」 Challenge問題	第1章～第16章のChallengeの演習と解説	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	10月～12月・期末考查
入試問題総合問題	入試問題Ⅰ・Ⅱ・A・B・C(ベクトル)総合問題演習と解説	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	1月～3月

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	数学	履修学年	3	教科書(出版社)	高等学校 数学C(数研出版)
科目	数学C(文系・必選)	必修・選択	必修選択	副教材等	教科書傍用問題集 4プロセス数学Ⅱ+B+C〔数列, 統計的な推測, ベクトル〕(数研出版) 「大学入学共通テスト対策/基本と演習 数学Ⅰ・A+Ⅱ・B・C標準演習PLAN100」(数研出版) チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B+C〔ベクトル〕(数研出版)
単位数	2				

1 学習の到達目標

「数学Ⅱ」「数学B」及び「数学C(ベクトル)」の範囲を中心とした問題を演習し、主に大学入学共通テストの標準的な問題が解答できる能力を育てる。
--

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
基本的な概念や原理法則を体系的に理解し、数学的に処理する技能を身につける。	数量関係を深く捉えて事象を数学的に考察・判断し、適切に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用したり、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりしている。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
※「第1章 平面上のベクトル」「第2章 空間のベクトル」は、第2学年「数学B」において、発展学習として習得済である。 「大学入学共通テスト対策/基本と演習 数学Ⅰ・A+Ⅱ・B・C標準演習 PLAN100」	基本事項の確認 入試問題の演習と解説	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	4月～5月・中間考査
「大学入学共通テスト対策/基本と演習 数学Ⅰ・A+Ⅱ・B・C標準演習 PLAN100」	基本事項の確認 入試問題の演習と解説	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	5月～7月・期末考査
「大学入学共通テスト対策/基本と演習 数学Ⅰ・A+Ⅱ・B・C標準演習 PLAN100」	基本事項の確認 入試問題の演習と解説	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	9月～10月・中間考査
「大学入学共通テスト対策/基本と演習 数学Ⅰ・A+Ⅱ・B・C標準演習 PLAN100」	基本事項の確認 入試問題の演習と解説	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	10月～12月・期末考査
大学入試総合演習	入試問題Ⅰ・A(及びⅡ・B・C) 総合問題演習と解説	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	1月～3月

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	数学	履修学年	3	教科書(出版社)	高等学校 数学Ⅰ(数研出版)、高等学校 数学Ⅱ(数研出版)、高等学校 数学A(数研出版)、 高等学校 数学B(数研出版)、高等学校 数学C(数研出版)
科目	数学演習	必修・ 選択	必修選択	副教材等	入試問題集「メジアン数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C(ベクトル)」(数研出版) チャート式 基礎からの数学Ⅰ+A(数研出版) チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B+C(ベクトル)(数研出版)
単位数	2				

1 学習の到達目標

「数学Ⅰ」「数学A」「数学Ⅱ」「数学B」「数学C」の範囲の問題を演習し、大学入試の標準的な問題が解答できる能力を育てる。
--

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
基本的な概念や原理法則を体系的に理解し、数学的に処理する技能を身につける。	数量関係を深く捉えて事象を数学的に考察・判断し、適切に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用したり、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりしている。

3 実施時期

単元	学習内容・ 学習のねらい	評価基準			時期・ 考查
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
入試問題集「メジアン数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C(ベクトル)」 12. 統計 10. 数列	12. 統計 データの分析 統計的な推測 10. 数列 等差数列・等比数列 種々の数列 漸化式と数列 数学的帰納法 数列の応用	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	4月～5月・ 中間考查
入試問題集「メジアン数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C(ベクトル)」 11. ベクトル 7. 図形と方程式 8. 三角・指数・対数関数	11. ベクトル ベクトルの基本 ベクトルと内積 ベクトルと平面図形 ベクトルと空間図形 7. 図形と方程式 点と直線 曲線と直線 軌跡 領域 図形と式の種々の問題 8. 三角・指数・対数関数 三角比と三角形 図形と計量 三角関数 指数・対数の計算 指数・対数の種々の問題	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	6月～7月・ 期末考查
入試問題集「メジアン数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C(ベクトル)」 9. 微分法・積分法 5. 場合の数と確率	9. 微分法・積分法 導関数・接線 関数の増減・極値 最大・最小(微分法) 方程式・不等式への応用 積分の計算 定積分で表された関数 面積 5. 場合の数と確率 場合の数・順列 組合せ 確率・期待値	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	7月～10月・ 中間考查
入試問題集「メジアン数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C(ベクトル)」 1. 数と式 2. 関数と方程式・不等式 3. 式と証明 4. 整数の性質 6. 図形の性質	1. 数と式 式の計算 恒等式・割り算の問題 方程式・不等式の解法 2. 関数と方程式・不等式 関数とグラフ 最大・最小 2次方程式の理論 種々の方程式の問題 不等式の種々の問題 3. 式と証明 式の値・二項定理 等式・不等式の証明 集合と論証 4. 整数の性質 約数と倍数 不定方程式 整数の種々の問題 6. 図形の性質	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	10月～12月・ 期末考查
大学入試総合問題	入試問題Ⅰ・Ⅱ・A・B・C(ベクトル)総合問題演習と解説	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	1月～3月

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	数学	履修学年	3	教科書(出版社)	高等学校 数学Ⅰ(数研出版)、高等学校 数学Ⅱ(数研出版)、高等学校 数学Ⅲ(数研出版) 高等学校 数学A(数研出版)、高等学校 数学B(数研出版)、高等学校 数学C(数研出版)
科目	数学発展演習	必修・選択	必修選択	副教材等	入試問題集「クリアー数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C(ベクトル)」(数研出版) チャート式 基礎からの数学Ⅰ+A(数研出版) チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B+C(ベクトル)(数研出版)
単位数	2				

1 学習の到達目標

「数学Ⅰ」「数学A」「数学Ⅱ」「数学B」「数学C」の範囲の問題を演習し、大学入試の標準的な問題が解答できる能力を育てる。
--

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
基本的な概念や原理法則を体系的に理解し、数学的に処理する技能を身につける。	数量関係を深く捉えて事象を数学的に考察・判断し、適切に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用したり、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりしている。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考查
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
入試問題集「クリアー数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C(ベクトル)」 14. 統計 12. 数列 13. ベクトル	14. 統計 データの分析 統計的な推測 12. 数列 等差数列・等比数列 種々の数列 漸化式と数列 数学的帰納法 数列の応用問題 13. ベクトル ベクトル 内積 ベクトルと平面図形 ベクトルと空間図形	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	4月～5月・中間考查
入試問題集「クリアー数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C(ベクトル)」 7. 図形と方程式 8. 三角比・三角関数 9. 指数関数・対数関数	7. 図形と方程式 点と直線 曲線と直線 軌跡 領域 図形と式の種々の問題 8. 三角比・三角関数 三角比と三角形 図形と計量 三角関数 9. 指数関数・対数関数 指数・対数の計算 指数・対数の種々の問題	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	6月～7月・期末考查
入試問題集「クリアー数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C(ベクトル)」 10. 微分法 11. 積分法 5. 場合の数と確率	10. 微分法 導関数・接線 関数の増減・極値 最大・最小(微分法) 方程式・不等式への応用 11. 積分法 積分の計算 定積分で表された関数 面積 5. 場合の数と確率 場合の数・順列 組合せ 確率 期待値	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	7月～10月・中間考查
入試問題集「クリアー数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C(ベクトル)」 4. 整数の性質 1. 数と式 2. 関数と方程式・不等式 3. 式と証明	4. 整数の性質 約数と倍数・余り 整数と方程式 整数の種々の問題 6. 図形の性質 1. 数と式 式の計算 恒等式・割り算の問題 方程式・不等式の解法 2. 関数と方程式・不等式 関数とグラフ 最大・最小 2次方程式の理論 種々の方程式の問題 不等式の種々の問題 3. 式と証明 式の値・二項定理 等式・不等式の証明 集合と論証	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	10月～12月・期末考查
入試問題総合問題	入試問題Ⅰ・Ⅱ・A・B・C(ベクトル)総合問題演習と解説	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	1月～3月

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	数学	履修学年	3	教科書(出版社)	高等学校 数学C(数研出版)
科目	数学C(文系・理系②自選)	必修・選択	自由選択	副教材等	教科書傍用問題集 4プロセス数学Ⅱ+B+C〔数列, 統計的な推測, ベクトル〕(数研出版) 「大学入学共通テスト対策/基本と演習 数学Ⅰ・A+Ⅱ・B・C標準演習PLAN100」(数研出版) チャート式 基礎からの数学Ⅰ+A(数研出版) チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B+C(ベクトル)(数研出版)
単位数	2				

1 学習の到達目標

「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学A」「数学B」及び「数学C(ベクトル)」の範囲を中心とした問題を演習し、主に大学入学共通テストの標準的な問題が解答できる能力を育てる。
--

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
基本的な概念や原理法則を体系的に理解し、数学的に処理する技能を身につける。	数量関係を深く捉えて事象を数学的に考察・判断し、適切に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用したり、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりしている。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
※「第1章 平面上のベクトル」「第2章 空間のベクトル」は、第2学年「数学B」において、発展学習として習得済である。 「大学入学共通テスト対策/基本と演習 数学Ⅰ・A+Ⅱ・B・C標準演習 PLAN100」	基本事項の確認 入試問題の演習と解説	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	4月～5月・中間考査
「大学入学共通テスト対策/基本と演習 数学Ⅰ・A+Ⅱ・B・C標準演習 PLAN100」	基本事項の確認 入試問題の演習と解説	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	5月～7月・期末考査
「大学入学共通テスト対策/基本と演習 数学Ⅰ・A+Ⅱ・B・C標準演習 PLAN100」	基本事項の確認 入試問題の演習と解説	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	9月～10月・中間考査
「大学入学共通テスト対策/基本と演習 数学Ⅰ・A+Ⅱ・B・C標準演習 PLAN100」	基本事項の確認 入試問題の演習と解説	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	10月～12月・期末考査
大学入試総合演習	入試問題Ⅰ・A(及びⅡ・B・C) 総合問題演習と解説	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	1月～3月

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	数学	履修学年	3	教科書(出版社)	高等学校 数学Ⅰ(数研出版)、高等学校 数学Ⅱ(数研出版)、高等学校 数学A(数研出版)、 高等学校 数学B(数研出版)、高等学校 数学C(数研出版)
科目	数学基礎演習	必修・ 選択	自由選択	副教材等	「大学入学共通テスト対策/基本と演習 数学Ⅰ・A+Ⅱ・B・C標準演習PLAN100」(数研出版) チャート式 基礎からの数学Ⅰ+A(数研出版) チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B+C(ベクトル)(数研出版)
単位数	2				

1 学習の到達目標

「数学Ⅰ」「数学A」の範囲を中心とした問題を演習し、主に大学入学共通テストの標準的な問題が解答できる能力を育てる。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
基本的な概念や原理法則を体系的に理解し、数学的に処理する技能を身につける。	数量関係を深く捉えて事象を数学的に考察・判断し、適切に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用したり、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりしている。

3 実施時期

単元	学習内容・ 学習のねらい	評価基準			時期・ 考查
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
「大学入学共通テスト対策/基本と演習 数学Ⅰ・A+Ⅱ・B・C標準演習 PLAN100」	基本事項の確認 入試問題の演習と解説 数と式 集合と命題 2次関数 図形と計量	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	4月～5月・ 中間考查
「大学入学共通テスト対策/基本と演習 数学Ⅰ・A+Ⅱ・B・C標準演習 PLAN100」	基本事項の確認 入試問題の演習と解説 データの分析 場合の数と確率 図形の性質	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	5月～7月・ 期末考查
「大学入学共通テスト対策/基本と演習 数学Ⅰ・A+Ⅱ・B・C標準演習 PLAN100」	基本事項の確認 入試問題の演習と解説 数と式 集合と命題 2次関数 図形と計量 の総合演習	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	9月～10月・ 中間考查
「大学入学共通テスト対策/基本と演習 数学Ⅰ・A+Ⅱ・B・C標準演習 PLAN100」	基本事項の確認 入試問題の演習と解説 データの分析 場合の数と確率 図形の性質 の総合演習	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	10月～12月・ 期末考查
大学入試総合演習	入試問題Ⅰ・A(及びⅡ・B・C) 総合問題演習と解説 数学Ⅰ・Aの全範囲に関する 確認と演習	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	1月～3月

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	数学	履修学年	3	教科書(出版社)	高等学校 数学Ⅰ(数研出版)、高等学校 数学Ⅱ(数研出版)、高等学校 数学Ⅲ(数研出版) 高等学校 数学A(数研出版)、高等学校 数学B(数研出版)、高等学校 数学C(数研出版)
科目	数学発展演習	必修・選択	自由選択	副教材等	入試問題集「クリアー数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C(ベクトル)」(数研出版) チャート式 基礎からの数学Ⅰ+A(数研出版) チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B+C(ベクトル)(数研出版)
単位数	2				

1 学習の到達目標

「数学Ⅰ」「数学A」「数学Ⅱ」「数学B」「数学C」の範囲の問題を演習し、大学入試の標準的な問題が解答できる能力を育てる。
--

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
基本的な概念や原理法則を体系的に理解し、数学的に処理する技能を身につける。	数量関係を深く捉えて事象を数学的に考察・判断し、適切に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用したり、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりしている。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考查
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
入試問題集「クリアー数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C(ベクトル)」 14. 統計 12. 数列 13. ベクトル	14. 統計 データの分析 統計的な推測 12. 数列 等差数列・等比数列 種々の数列 漸化式と数列 数学的帰納法 数列の応用問題 13. ベクトル ベクトル 内積 ベクトルと平面図形 ベクトルと空間図形	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	4月～5月・中間考查
入試問題集「クリアー数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C(ベクトル)」 7. 図形と方程式 8. 二角比・三角関数 9. 指数関数・対数関数	7. 図形と方程式 点と直線 曲線と直線 軌跡 領域 図形と式の種々の問題 8. 三角比・三角関数 三角比と三角形 図形と計量 三角関数 9. 指数関数・対数関数 指数・対数の計算 指数・対数の種々の問題	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	6月～7月・期末考查
入試問題集「クリアー数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C(ベクトル)」 10. 微分法 11. 積分法 5. 場合の数と確率	10. 微分法 導関数・接線 関数の増減・極値 最大・最小(微分法) 方程式・不等式への応用 11. 積分法 積分の計算 定積分で表された関数 面積 5. 場合の数と確率 場合の数・順列 組合せ 確率 期待値	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	7月～10月・中間考查
入試問題集「クリアー数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C(ベクトル)」 4. 整数の性質 1. 数と式 2. 関数と方程式・不等式 3. 式と証明	4. 整数の性質 約数と倍数・余り 整数と方程式 整数の種々の問題 6. 図形の性質 1. 数と式 式の計算 恒等式・割り算の問題 方程式・不等式の解法 2. 関数と方程式・不等式 関数とグラフ 最大・最小 2次方程式の理論 種々の方程式の問題 不等式の種々の問題 3. 式と証明 式の値・二項定理 等式・不等式の証明 集合と論証	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	10月～12月・期末考查
入試問題総合問題	入試問題(数学全範囲)総合問題演習と解説	入試問題について基本的な概念や原理法則に基づいて理解し、計算・処理する技能を身につけている。	入試問題に対して事象を深く捉え、数学的に考察したり表現したりする力が身につけている。	入試問題に対して意欲的に取り組み、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりする。	1月～3月

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

科目	理科	履修学年	3	教科書(出版社)	高等学校 化学 (啓林館)
教科	化学	必修・選択	必修選択	副教材等	セミナー化学基礎+化学(第一学習社) 化学重要問題集(数研出版) 新課程版スクエア最新化学図説(第一学習社)
単位数	4				

1 学習の到達目標

日常生活や社会との関連を切りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、科学的に探究する態度と態度を身につけるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができていく。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけている。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるが、自ら学習を調整しようとしている。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
第2部「物質の変化と平衡」 第4章 化学平衡 第1章 有機化合物 第1章 有機化合物の特徴と分類	1.化学平衡と電離平衡 可逆反応、化学平衡及び化学平衡の移動を理解する。 2.電離平衡 水のイオン積とpH、弱酸や弱塩基の電離平衡、緩衝液のpH調整平衡について理解する。 1.有機化合物の特徴と分類 有機化合物の特徴と分類を理解する。 2.有機化合物の分析 元素分析により、組成式・分子式・構造式が決定されることを理解する。	化学平衡の条件変化による移動について理解することができる。 電離定数をもとにして、電離平衡について理解することができる。 有機化合物の特徴と分類について理解することができる。 有機化合物の分析について理解することができる。	ルシャトリエの原理をもとに化学平衡の移動について考えることができる。 弱酸や弱塩基の電離定数をもとに水溶液のpHを求めることができる。また、緩衝液や弱塩基の緩衝作用、緩衝液のpH調整について説明できる。 有機化合物の特徴と分類を考えることができる。 元素分析により、組成式・分子式・構造式が決定されることについて考えることができる。	化学平衡の状態やそのときの各成分の量的関係、条件の変化に伴う量的変化の方向について調べようとする。 有機化合物の一般的な性質や構造を理解し、分類や分析の仕方を探ろうとする。 成分元素の検出について振り返り、日常生活や社会に生かそうとする。	4月 5月 中間考査
第2章 脂肪族炭化水素 第3章 酸を含む脂肪族化合物	1.飽和炭化水素 飽和炭化水素の性質や反応を構造と関連づけて理解する。 2.不飽和炭化水素 不飽和炭化水素、飽和基をもつ脂肪族化合物の性質や反応について理解する。 1.アルコールとエーテル アルコールの分類や性質とエーテルの性質について理解する。 2.アルデヒドとケトン アルデヒドの性質とケトンについて理解する。 3.カルボン酸 カルボン酸の構造や性質、特徴異性体について理解する。 4.エステルと油脂 エステルと油脂の構造や性質について理解する。	飽和炭化水素とその性質、反応について理解することができる。 不飽和炭化水素とその性質、反応について理解することができる。 アルコールとエーテルの性質、反応について理解することができる。 アルデヒドとケトンの性質、反応について理解することができる。 カルボン酸の性質、反応について理解することができる。 エステルと油脂の性質、反応について理解することができる。	脂肪族炭化水素の性質や反応を構造と関連づけて考えることができる。 不飽和炭化水素の性質や反応について考えることができる。 アルコールの分類や性質とエーテルの性質を考えることができる。 アルデヒドとケトンの性質について考えることができる。 カルボン酸の構造や性質、光学異性体について考えることができる。 エステルや油脂の構造、性質について考えることができる。	有機化合物の基本的な化合物である炭化水素のうち、脂肪族炭化水素と脂肪族炭化水素の構造と性質を調べようとする。 不飽和炭化水素や、官能基をもつ脂肪族化合物の構造と性質を調べようとする。 酸を含む有機化合物であるアルコールやエーテルについて、構造や性質を調べようとする。 アルデヒド、ケトンについて、構造や性質を調べようとする。 酸を含む有機化合物であるカルボン酸について、構造や性質を調べようとする。 酸を含む有機化合物であるエステルと油脂について、構造や性質を調べようとする。	5月 7月 期末考査
第4章 芳香族化合物 第3部「無機物質」 第2章 非金属元素	1.芳香族炭化水素 芳香族炭化水素の構造、性質や反応について理解する。 2.酸を含む芳香族化合物 酸を含む芳香族化合物の構造、性質や反応について理解する。 3.窒素を含む芳香族化合物 窒素を含む芳香族化合物の構造、性質や反応について理解する。 4.有機化合物の分類 有機化合物の性質を利用して、混合溶液の分離が可能であることを理解する。 1.水素と貴ガス 水素の単体及び、18族元素の貴ガスの単体の性質を理解する。 2.ハロゲン 17族元素のハロゲンの単体及び、その化合物の性質を理解する。 3.酸素・硫黄 周期表16族の非金属元素の単体及び、その化合物の性質を理解する。 4.窒素・リン 周期表15族の非金属元素の単体及び、その化合物の性質を理解する。 5.炭素・ケイ素 周期表14族の非金属元素の単体及び、その化合物の性質を理解する。	芳香族炭化水素の性質、反応について理解することができる。 酸を含む芳香族化合物の性質、反応について理解することができる。 有機化合物の分類について理解することができる。 芳香族炭化水素の構造、性質や反応について理解することができる。 酸を含む芳香族化合物(フェノール類、芳香族カルボン酸など)の構造、性質や反応について考えることができる。 有機化合物の性質を利用して、混合溶液の分離が可能であることを理解することができる。 1.水素と貴ガス 水素と貴ガスの性質について理解することができる。 ハロゲンとその化合物の性質について理解することができる。 酸素・硫黄とその化合物の性質について理解することができる。 窒素・リンとその化合物の性質について理解することができる。 炭素・ケイ素とその化合物の性質について理解することができる。	芳香族炭化水素の構造、性質や反応を調べようとする。 酸を含む芳香族化合物(フェノール類、芳香族カルボン酸など)の構造、性質や反応について考えることができる。 窒素を含む芳香族化合物(芳香族アミンなど)の構造、性質や反応について考えることができる。 有機化合物の性質を利用して、混合溶液の分離が可能であることを理解することができる。 水素・貴ガスについて、それらの反応や性質を調べようとする。 ハロゲンの単体及び化合物について、それらの反応や性質を調べようとする。 酸素・硫黄の単体及び化合物について、それらの反応や性質を調べようとする。 窒素・リンの単体及び化合物について、それらの反応や性質を調べようとする。 炭素・ケイ素の単体及び化合物について、それらの反応や性質を調べようとする。	9月 10月 中間考査	
第3章 遷移金属元素 第4部 遷移元素 第5章 高分子化合物 第1章 高分子化合物 第2章 天然高分子化合物 第3章 合成高分子化合物	1.アルカリ金属 アルカリ金属の単体及び、その化合物の性質を理解する。 2.アルカリ土類金属 アルカリ土類金属の単体及び、その化合物の性質を理解する。 3.アルミニウム アルミニウムの単体及び、化合物の性質を理解する。 4.スズ・鉛 スズ・鉛の単体及び、化合物の性質を理解する。 5.遷移元素 遷移元素の単体及び、その化合物の性質や反応について理解する。 2.金属イオンの分離と確認 金属イオンの特定や陰イオンとの反応、分離と確認について理解する。 1.糖類 糖の種類と構造、性質について理解する。 2.タンパク質 タンパク質を構成する主なアミノ酸の種類や、構造、性質を理解する。また、タンパク質の高次構造や性質について理解する。 3.核酸 遺伝情報の伝達のための役割を果たしている、高分子化合物である核酸の構造と複製の仕組みを理解する。 4.高分子 高分子化合物の分類、合成及び特徴を理解する。 2.合成繊維 合成繊維の構造、性質及び合成について理解する。 3.プラスチック(合成樹脂) 熱や圧力を加えることによって目的とする形に成形することができる性質をもつ高分子材料であるプラスチックの種類、性質を理解する。 4.ゴム 大きな弾性をもった高分子化合物であるゴムの種類、構造、性質を理解する。 5.生活で利用されている合成樹脂 生活で利用されている合成高分子の種類、構造、性質を理解する。	アルカリ金属とその化合物の性質について理解することができる。 アルカリ土類金属とその化合物の性質について理解することができる。 アルミニウムとその化合物の性質について理解することができる。 スズ・鉛とその化合物の性質について理解することができる。 遷移元素の特徴及び、亜鉛、水銀、銅、鉄、クロム、マンガン、コバルトとそれらの化合物の性質について理解することができる。 金属イオンを分離し、確認する方法について理解することができる。 糖類について理解することができる。 タンパク質について理解することができる。 核酸の構造と複製の仕組みについて理解することができる。 合成高分子化合物の合成について理解することができる。	アルカリ金属とその化合物の性質を、電子配置や酸・塩基、酸化・還元などと関連づけて考えることができる。 アルカリ土類金属とその化合物の性質を、電子配置や酸・塩基、酸化・還元などと関連づけて考えることができる。 アルミニウムとその化合物の性質を、電子配置や酸・塩基、酸化・還元などと関連づけて考えることができる。 スズ・鉛とその化合物の性質を、電子配置や酸・塩基、酸化・還元などと関連づけて考えることができる。 遷移元素とその化合物の性質を、電子配置や酸・塩基、酸化・還元などと関連づけて考えることができる。 金属イオンが特定の陰イオンとの反応により分離できることを、理由を述べ表現することができる。 糖の種類と構造、性質について考えることができる。 タンパク質を構成する主なアミノ酸の種類や、構造、性質を調べようとする。 核酸の構造と複製の仕組みを調べようとする。 合成高分子化合物の合成について考えることができる。 合成高分子化合物の構造、性質及び合成について考えることができる。 高分子材料であるプラスチックの種類、性質を調べようとする。 ゴムの種類、構造、性質を調べようとする。 生活で利用されている合成樹脂の種類、構造、性質を調べようとする。	アルカリ金属の単体及び化合物について、それらの反応や性質を調べようとする。 アルカリ土類金属の単体及び化合物について、それらの反応や性質を調べようとする。 アルミニウムの単体及び化合物について、それらの反応や性質を調べようとする。 スズ・鉛の単体及び化合物について、それらの反応や性質を調べようとする。 遷移元素の単体及び化合物について、それらの反応や性質を調べようとする。 金属イオンの分離の方法について調べようとする。 タンパク質と、それを構成している化合物の構造や性質について、化学的に調べようとする。 核酸の構造や性質について、化学的に調べようとする。 高分子化合物の合成について振り返り、日常生活や社会に生かそうとする。 合成繊維の種類とその性質について調べようとする。 プラスチックの種類とその性質について調べようとする。 ゴムの種類とその性質について調べようとする。 生活で利用されている合成樹脂の種類、構造、性質について調べようとする。	1月 12月 1月 3月 期末考査

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	理科	履修学年	3	教科書(出版社)	高等学校 化学 (啓林館)
科目	化学演習	必修・選択	必修選択	副教材等	セミナー化学基礎+化学 (第一学習社) 化学重要問題集 (数研出版) 新課程版スクエア最新化学図説 (第一学習社)
単位数	2				

1 学習の到達目標

この講座は、共通テストや国公立2次・私大で化学(化学基礎分野も含む)を使用する予定の人を対象とし、演習を通して、大学入試問題の得点力をつけることを目標とする。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけている。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考查
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
物質の状態 物質の変化と平衡	固体の構造 →化学結合と分子間力を関連付けながら固体の結晶構造について理解する。 物質の三態と気体の性質 →気圧平衡や蒸気圧、状態図について理解する。また、理想気体の状態方程式やその他気体に関する法則を理解する。 化学平衡 →平衡定数を用いた基本的な問題を解けるようにし、ルシャトリエの原理および電離平衡について理解する。	「固体の構造」「物質の三態と気体の性質」「化学平衡」に関する基本的な知識の習得や理解ができています。	「固体の構造」「物質の三態と気体の性質」「化学平衡」に関して、修得した知識技能を活用して問題に取り組む。	「固体の構造」「物質の三態と気体の性質」「化学平衡」に関して興味をもって調べ、学習ができる。	4月～5月・中間考查
物質の状態 物質の変化と平衡 有機化合物	溶液の性質 →希薄溶液の性質(蒸気圧降下・沸点上昇・凝固点降下・浸透圧)について理解する。 物質とエネルギー →ヘスの法則を用いてエンタルピー変化の計算のやり方を理解する。 脂肪族炭化水素 →脂肪族炭化水素の性質、構造異性体について理解する。	「溶液の性質」「物質とエネルギー」「有機化合物」に関する基本的な知識の習得や理解ができています。	「溶液の性質」「物質とエネルギー」「有機化合物」に関して、修得した知識技能を活用して問題に取り組む。	「溶液の性質」「物質とエネルギー」「有機化合物」に関して興味をもって調べ、学習ができる。	6月～7月・期末考查
有機化合物 物質の変化と平衡	酸素を含む脂肪族化合物 →アルコール・アルデヒド・ケトン・エステル・油脂について理解する。 芳香族化合物 →フェノール類・芳香族カルボン酸・芳香族アミン・芳香族化合物の分類について理解する。 電池・電気分解 →ダニエル電池・鉛蓄電池・燃料電池について理解する。また、電気分解の原理について理解する。 化学反応の速さ →化学反応の速さの表し方やアレニウスの式を理解する。	「有機化合物」「電池・電気分解」「反応の速さ」に関する基本的な知識の習得や理解ができています。	「有機化合物」「電池・電気分解」「反応の速さ」に関して、修得した知識技能を活用して問題に取り組む。	「有機化合物」「電池・電気分解」「反応の速さ」に関して興味をもって調べ、学習ができる。	9月～10月・中間考查
無機物質 高分子化合物	非金属元素の単体と化合物 →非金属元素の単体と化合物の性質および製法について理解する。 金属元素の単体と化合物 →金属元素の単体と化合物の性質および製法について理解する。 天然高分子化合物 →糖類・タンパク質について理解する。 合成高分子化合物 →熱可塑性樹脂と熱硬化性樹脂の違いや性質について理解する。	「無機物質」「高分子化合物」に関する基本的な知識の習得や理解ができています。	「無機物質」「高分子化合物」に関して、修得した知識技能を活用して問題に取り組む。	「無機物質」「高分子化合物」に関して興味をもって調べ、学習ができる。	11月～12月・期末考查

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	理科	履修学年	3	教科書(出版社)	生物 (実教出版)
科目	生物	必修 選択	必修選択	副教材等	スクエア最新図説生物 セミナー生物
単位数	4				

1 学習の到達目標

生物や生命現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生命現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を育成する。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養うとともに、生命現象について考察したことを適切に表現できる能力を養う。	生物や生命現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期 ・ 考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
2章 生命現象と物質 1節 細胞と分子 1 細胞を構成する物質 2 生体膜の働きと細胞 2節 生命現象とタンパク質 1 タンパク質の構造と機能 2 酵素として働くタンパク質 3 物質の輸送や情報伝達に働くタンパク質 3節 代謝 1 代謝 2 呼吸と醗酵 3 光合成	生体物質と細胞に関する資料に基づいて、細胞を構成する物質を細胞の機能と関連づけて理解する。 生命現象とタンパク質に関する観察、実験などを行い、タンパク質の機能を生命現象と関連づけて理解する。 呼吸に関する資料に基づいて、細胞を構成エネルギーの流れと関連づけて理解する。 光合成に関する資料に基づいて、光合成をエネルギーの流れと関連づけて理解する。	生体膜の構造について理解している。 細胞の構造について理解している。 タンパク質の構造について理解している。 酵素の性質について理解している。 輸送タンパク質について理解している。 受容体のしくみについて理解している。 呼吸のしくみについて理解している。 呼吸と発酵の関係について理解している。 葉緑体の構造について理解している。 光合成のしくみについて理解している。 色素を分離できる。 C4植物について理解している。	生体物質の特徴を考察できる。 細胞骨格の働きを考察できる。 タンパク質の構造と働きを考察できる。 実験に基づいて酵素の性質を見出せる。 さまざまな受容体について説明できる。 代謝とエネルギーの関係を説明できる。 呼吸におけるATP合成のしくみについて説明できる。 光合成におけるATP合成のしくみについて説明できる。 カルビン回路について説明できる。	グラフから酵素反応の特徴を見出そうとする。 細胞骨格の働きを考察できる。 呼吸と発酵の関係を見出そうとする。 呼吸と光合成の関係を見出そうとする。 炭酸同化の反応の違いから系統を推理しようとする。 実験や観察を主体的に進めようとしている。 さまざまな受容体について説明できる。 授業内容や思考内容を振り返り、適切にまとめ、整理することができる。	4月 5月 1学期 中間考査
3章 遺伝情報の発現と発生 1節 遺伝情報とその発現 1 DNAと染色体 2 DNAの複製 3 遺伝子の発現 4 遺伝子の発現調節 2節 発生と遺伝子発現 1 動物の配偶子形成と受精 2 初期発生の過程 3 発生のしくみと遺伝子発現 4 形態形成と遺伝子の発現調節 3節 遺伝子を扱う技術 1 バイオテクノロジー 2 バイオテクノロジーの応用	DNAの複製に関する資料に基づいて、DNAの複製のしくみ理解する。また、遺伝子発現に関する資料に基づいて、遺伝子の発現のしくみを理解する。 遺伝子と発現調節に関する資料に基づいて、遺伝子の発現が調節されていることを見出し理解する。また、転写の調節をそれにかかわるタンパク質と関連づけて理解する。 発生の過程における分化を遺伝子発現の調節に関連づけて理解する。 遺伝子を扱う技術について、その原理と有用性を理解する。	DNAの構造について理解している。 DNA複製のしくみについて理解している。 転写と翻訳について理解している。 遺伝子発現が読める。 発現調節のしくみについて理解している。 配偶子形成のしくみについて理解している。 初期発生の過程について理解している。 カールの器官形成について理解している。 神経誘導のしくみについて理解している。 ショウジョウバエの体節形成について理解している。 Hox遺伝子群の働きについて理解している。 遺伝子組換えのしくみについて理解している。 PCR法について理解している。	DNA複製のしくみを見出せる。 遺伝子発現調節のしくみを見出せる。 実験に基づきオペロン説について考察できる。 トリプトファンオペロンを説明できる。 体軸形成のしくみを推論できる。 誘導のしくみを推論できる。 遺伝子組換えの方法を具体的に説明できる。 電気泳動の結果から塩基配列を決定できる。 遺伝子組換えについての課題を考察できる。	DNA複製のしくみを調べようとしている。 遺伝子発現調節のしくみを見出そうとする。 受精や発生の過程を主体的に調べようとする。 誘導のしくみの調べる実験を考案する。 遺伝子組換えの活用方法を考察しようとする。 実験や観察を主体的に進めようとしている。 授業内容や思考内容を振り返り、適切にまとめ、整理することができる。	5月 10月 1学期 期末考査・ 2学期 中間考査
5章 生態と環境 1節 個体群と生物群集 1 個体群とその性質 2 個体群内の相互作用 3 異種個体群間の相互作用 2節 生態系 1 生態系の物質生産 2 物質循環とエネルギーの流れ 3 生態系と人間生活	個体群内の相互作用に関する観察、実験などを行い、個体群が維持されるしくみや個体群間の関係性を見出し理解する。 個体群間の相互作用に関する資料に基づいて、生物群集が維持される仕組みや個体群間の関係性を見出し理解する。 生態系の物質循環に関する資料に基づいて、生態系における物質生産及びエネルギーの移動と生態系での物質循環とを関連づけて理解する。 生態系と人間生活に関する資料に基づいて、人間生活が生態系に及ぼす影響を見出し理解する。	個体群について理解している。 個体群の成長曲線について理解している。 個体群間の関係性について理解している。 社会性昆虫について理解している。 種間競争について理解している。 生態系内の物質の流れについて理解している。 窒素循環について理解している。 生物多様性の意義について理解している。 生態系を保全する方法について理解している。	実験から個体群の大きさを推論できる。 資料から密度効果の存在を見出せる。 グラフから最適な縄張りの大きさを推論できる。 血縁度の求め方を理解できる。 実験から個体群間の相互作用を見出せる。 窒素同化と窒素固定の違いを説明できる。 生態系の物質収支を計算できる。 生態系の保全に必要なことを考察できる。	グラフから個体群間の関係を見出そうとする。 包括適度について考察しようとする。 生命表の内容を読み取ろうとしている。 生物多様性の重要性を理解しようとしている。 生態系を保全しようとする態度がみられる。 生態系の物質収支を計算できる。 実験や観察を主体的に進めようとしている。 授業内容や思考内容を振り返り、適切にまとめ、整理することができる。	10月 12月 2学期 期末考査
総合演習	看護系大学入試問題対策 共通テスト対策 私立大学入試問題対策 国立大学入試問題対策	入試問題に対応できる総合的な生物学の知識・技能を身につけている。	入試問題中で説明される実験や生命現象について、適切に考察を行うことができる。	入試問題に主体的に取り組み、自己の学習を調節できる。	特別 編成 授業

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	理科	履修学年	3	教科書(出版社)	生物 (実教出版)
科目	生物演習	必修	必修選択	副教材等	スクエア最新図説生物 セミナー生物
単位数	2	選択			

1 学習の到達目標

入試科目として生物を使用する予定の生徒などを対象とし、主に演習を行うことで、大学入試問題に対応できる力を育成するとともに、生物や生命現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
生物学の基本的な概念や原理・法則についての理解を深め、科学的に探究するために基本的な知識・技能を育成する。	問題演習を通じて、これまでに学んだ知識を活用しながら、それらを統合して思考し、判断することができる能力や、自身の考えを適切に表現できる能力を育成する。	生物や生命現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・ 考查
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
細胞・代謝	生体物質と細胞に関する資料に基づいて、細胞を構成する物質を細胞の機能と関連づけて理解する。 個体内・細胞内の恒常性について理解する。 生命現象とタンパク質に関する観察、実験などを行い、タンパク質の機能を生命現象と関連づけて理解する。 呼吸に関する資料に基づいて、細胞を構成エネルギーの流れと関連づけて理解する。 光合成に関する資料に基づいて、光合成をエネルギーの流れと関連づけて理解する。	生体膜の構造について理解している。 細胞の構造について理解している。 酵素の性質について理解している。 輸送タンパク質について理解している。 受容体のしくみについて理解している。 呼吸のしくみについて理解している。 呼吸と発酵の関係について理解している。 葉緑体の構造について理解している。 光合成のしくみについて理解している	生体物質の特徴を考察できる。 タンパク質の構造と動きの関係を考察できる。 輸送タンパク質の違いを説明できる。 代謝とエネルギーの関係を説明できる。 呼吸におけるATP合成のしくみについて説明できる。 光合成におけるATP合成のしくみについて説明できる。 カルビン回路について説明できる。	グラフから酵素反応の特徴を見出そうとする。 タンパク質の構造と動きの関係を考察できる。 呼吸と発酵の関係を見出そうとする。 呼吸と光合成の関係を見出そうとする。 主体的に演習に取り組んでいる。 授業内容や思考内容を振り返り、適切にまとめ・整理することができる。	4月 5月 1学期中間 考查
遺伝情報の発現	DNAの複製に関する資料に基づいて、DNAの複製のしくみ理解する。また、遺伝子発現に関する資料に基づいて、遺伝子の発現のしくみを理解する。 遺伝子との発現調節に関する資料に基づいて、遺伝子の発現が調節されていることを見出して理解する。また、転写の調節をそれにかかわるタンパク質と関連づけて理解する。	DNAの構造について理解している。 DNA複製のしくみについて理解している。 遺伝子発現について理解している。 転写と翻訳について理解している。 遺伝暗号表が読める。 発現調節のしくみについて理解している。	DNA複製のしくみを見出せる。 遺伝子発現のしくみを見出せる。 DNAの長さについて考察できる。 DNA中に含まれる塩基の割合について考察できる。 実験に基づき遺伝子発現の調節のしくみについて考察できる。	DNA複製のしくみを調べようとしている。 遺伝子発現調節のしくみを見出そうとする。 主体的に演習に取り組んでいる。 授業内容や思考内容を振り返り、適切にまとめ・整理することができる。	5月 10月 1学期期末 考查・2学期 中間 考查
生態系	生態系の物質循環に関する資料に基づいて、生態系における物質生産及びエネルギーの移動と生態系での物質循環とを関連付けて理解する。	生態系内の物質の流れについて理解している。 生態系内における炭素循環について理解する。 生態系内における窒素循環について理解している。 生態系内におけるエネルギーの流れについて理解する。 生態系内における物質収支について理解する。 生物多様性の意義について理解している。 生態系を保全する方法について理解している。	窒素同化と窒素固定の違いを説明できる。 生態系の物質収支を計算できる。 生態系の保全に必要なことを考察できる。	生態系を保全しようとする態度がみられる。 主体的に演習に取り組んでいる。 授業内容や思考内容を振り返り、適切にまとめ・整理することができる。	10月 11月 2学期 期末 考查
総合演習	看護系大学入試問題対策 共通テスト対策 私立大学入試問題対策 国立大学入試問題対策	入試問題に対応できる総合的な生物学の知識・技能を身につけている。	入試問題中で説明される実験や生命現象について、適切に考察を行うことができる。	入試問題に主体的に取り組み、自己の学習を調節できる。	特別 編成 授業

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	理科	履修学年		教科書(出版社)	物理(数研出版)
科目	物理	必修	必修選択	副教材等	2025新課程版セミナー物理基礎+物理
単位数	4	選択			

1 学習の到達目標

「物理基礎」までの学習を踏まえて、物理的な事象・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物理的な事象・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を身につける。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
物理学の基本的な概念や原理・法則の理解科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能	観察、実験などを行う中で養われる、科学的に探究する力	物理的な事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
(1)様々な運動 (9)円運動と単振動 (1)様々な運動 (4)万有引力	② 円運動…円運動をする物体の様子を表す方法やその物体に働く力などについて理解する。 ④ 単振動…振り子に関する実験などを行い、単振動の規則性を見いだし理解するとともに、単振動をする物体の様子を表す方法やその物体に働く力などについて理解する。 ⑦ 惑星の運動…惑星の運動に関する法則を理解する。 ① 万有引力…万有引力による物体の運動について理解する。	円運動と単振動について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につけている。 万有引力について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につけている。	円運動と単振動について、観察、実験などを通して探究し、規則性や関係性を見いだして表現している。 万有引力について、観察、実験などを通して探究し、規則性や関係性を見いだして表現している。	物理的な事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。 「円運動と単振動」、「万有引力」の両方に共通の評価基準	4月～5月・中間考査
(1)様々な運動 (4)気体分子の運動 (3)電気と磁気 (7)電気と電流	② 気体分子の運動と圧力…気体分子の運動と圧力との関係について理解する。 ④ 気体の内部エネルギー…気体の内部エネルギーについて、気体分子の運動と関連付けて理解する。 ⑥ 気体の状態変化…気体の状態変化に関する実験などを行い、熱、仕事及び内部エネルギーの関係について理解する。 (電気と電流) ② 電流による磁界…電流がつくる磁界の様子を理解する。 ④ 電流が磁界から受ける力…ローレンツ力について理解する。 ⑥ 電磁誘導…磁束の変化と誘導起電力の向きや大きさとの関係を見いだし理解するとともに、電磁誘導の法則を理解する。また、交流の発生について理解する。 ⑧ 電磁波…電磁波の性質とその利用を理解する。	気体分子の運動について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につけている。 電流と磁界について、日常生活や社会と関連付けて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につけている。	気体分子の運動について、観察、実験などを通して探究し、規則性や関係性を見いだして表現している。 電流と磁界について、観察、実験などを通して探究し、規則性や関係性を見いだして表現している。	物理的な事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。 ※「気体分子の運動」、「電気と電流」の両方に共通の評価基準	6月～7月・期末考査
(3)電気と磁気 (4)電流と磁界 (4)原子 (7)電子と光 (電子と光の学習内容) ② 電子…電子の電荷と質量について理解する。 ④ 粒子性と波動性…電子や光の粒子性と波動性について理解する。	② 電流による磁界…電流がつくる磁界の様子を理解する。 ④ 電流が磁界から受ける力…電流が磁界から受ける力について理解する。 ⑥ 電磁誘導…電磁誘導に関する実験などを行い、磁束の変化と誘導起電力の向きや大きさとの関係を見いだし理解するとともに、電磁誘導の法則を理解する。また、交流の発生について理解する。 ⑧ 電磁波…電磁波の性質とその利用を理解する。	② 電流による磁界…電流がつくる磁界の様子を理解する。 ④ 電流が磁界から受ける力…電流が磁界から受ける力について理解する。 ⑥ 電磁誘導…電磁誘導に関する実験などを行い、磁束の変化と誘導起電力の向きや大きさとの関係を見いだし理解するとともに、電磁誘導の法則を理解する。また、交流の発生について理解する。 ⑧ 電磁波…電磁波の性質とその利用を理解する。	電流と磁界について、日常生活や社会と関連付けて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につけている。 原子について、観察、実験などを通して探究し、電子と光における規則性や関係性を見いだして表現している。	物理的な事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。 ※「気体分子の運動」、「電気と電流」の両方に共通の評価基準「電流と磁界」、「電子と光」の両方に共通の評価基準	9月～10月・中間考査
(4)原子 (4)原子と原子核	② 原子とスペクトル…原子の構造及びスペクトルと電子のエネルギー準位との関係について理解する。 ④ 原子核…原子核の構成、原子核の崩壊及び核反応について理解する。 ⑥ 素粒子…素粒子の存在について知る。	原子と原子核について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につけている。	原子について、観察、実験などを通して探究し、原子と原子核における規則性や関係性を見いだして表現している。	物理的な事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	11月～12月・期末考査

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	理科	履修学年	3	教科書(出版社)	化学基礎 (数研出版)
科目	化学基礎演習	必修・選択	自由選択	副教材等	ピーライン化学基礎 (第一学習社)
単位数	1				セミナー化学基礎+化学 (第一学習社)

1 学習の到達目標

この講座は、共通テストで受験科目として化学基礎を使用する予定の人（主に文系の国公立大学など）を対象としている。演習を行って、大学入試問題の得点力をアップさせることがねらいである。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができていないか。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
物質の構成	物質の成分と構成元素 原子の構造と周期表 化学結合	「物質の成分と構成元素」に関する基本的な知識の習得や理解ができていない。 「原子の構造と周期表」に関する基本的な知識の習得や理解ができていない。 「化学結合」に関する基本的な知識の習得や理解ができていない。	「物質の成分と構成元素」に関して、修得した知識技能を活用して問題に取り組む。 「原子の構造と周期表」に関して、修得した知識技能を活用して問題に取り組む。 「化学結合」に関して、修得した知識技能を活用して問題に取り組む。	「物質の成分と構成元素」に関して興味をもって調べ、学習ができる。 「原子の構造と周期表」に関して興味をもって調べ、学習ができる。 「化学結合」に関して興味をもって調べ、学習ができる。	4月 5月 ・ 中間考査
物質の変化	物質量と濃度 化学反応式 酸と塩基	「物質量と濃度」に関する基本的な知識の習得や理解ができていない。 「化学反応式」に関する基本的な知識の習得や理解ができていない。 「酸と塩基」に関する基本的な知識の習得や理解ができていない。	「物質量と濃度」に関して、修得した知識技能を活用して問題に取り組む。 「化学反応式」に関して、修得した知識技能を活用して問題に取り組む。 「酸と塩基」に関して、修得した知識技能を活用して問題に取り組む。	「物質量と濃度」に関して興味をもって調べ、学習ができる。 「化学反応式」に関して興味をもって調べ、学習ができる。 「酸と塩基」に関して興味をもって調べ、学習ができる。	5月 6月 ・ 期末考査
	酸化還元反応 身のまわりの化学	「酸化還元反応」に関する基本的な知識の習得や理解ができていない。 「身のまわりの化学」に関する基本的な知識の習得や理解ができていない。	「酸化還元反応」に関して、修得した知識技能を活用して問題に取り組む。 「身のまわりの化学」に関して、修得した知識技能を活用して問題に取り組む。	「酸化還元反応」に関して興味をもって調べ、学習ができる。 「身のまわりの化学」に関して興味をもって調べ、学習ができる。	9月 10月 ・ 中間考査
総合問題	総合演習	「化学基礎全般」に関する基本的な知識の習得や理解ができていない。	「化学基礎全般」に関して、修得した知識技能を活用して問題に取り組む。	「化学基礎全般」に関して興味をもって調べ、学習ができる。	10月 11月 12月 1月 3月 ・ 期末考査

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	理科	履修学年	3	教科書(出版社)	生物基礎 (実教出版)
科目	生物基礎演習	必修・選択	自由選択	副教材等	チェック&演習生物基礎 セミナー生物基礎
単位数	1				

1 学習の到達目標

この講座は、共通テストで受験科目として化学基礎を使用する予定の人(主に文系の国公立大学など)を対象としている。演習を行っている、大学入試問題の得点力をアップさせることがねらいである。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために基本的な技能に関する知識を身につける。	入試問題では、これまで学んだ知識を駆使しながら、それらを総合して思考し、判断することが求められる。問題演習を通じてそれらの育成を行う。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考查
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
1章 生物の特徴 1節 生物の多様性と共通性 2節 生物とエネルギー	さまざまな生物の比較を通じて、生物は多様でありながら共通性を持っていることを理解する。生物の共通性が生物の起源を共有することを関連付けて理解する。 生物とエネルギーに関する資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解する。光合成や呼吸などの代謝とATPを関連付けて理解する。	生物の共通性を理解している。 真核細胞と原核細胞の共通点を理解している。 酵素の働きを理解している。 光合成の過程の概要を理解している。 呼吸の過程の概要を理解している。 呼吸や光合成とATPの関係を理解している。 顕微鏡を正しく使用できる。	観察を通じて、細胞の共通点を見出せる。 生物が共通性をもつ由来を説明できる。 資料や実験から酵素の性質を見出せる。 光合成や呼吸におけるATPの役割を説明できる。	生物が共通性をもつ理由を考えようとしている。 生命活動とエネルギーの関係を考察する。 授業内容や思考内容を記録し整理する。	4月 5月 中間 考查
2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA 2節 遺伝情報とタンパク質の合成	DNAの構造に関する資料に基づいて、DNAの特徴を理解する。 塩基の相補性とDNAの複製を関連付けて理解する。 遺伝情報の発現に関する資料に基づいて、DNAの塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列との関係を理解する。また、遺伝子とゲノムの関係を理解する。	DNAの構造の特徴を理解している。 DNAの複製のしくみを理解している。 細胞分裂の過程を理解している。 タンパク質と形質との関係を理解している。 遺伝子とタンパク質の関係を理解している。 ゲノムと遺伝子の関係を理解している。	DNA模型を製作しその特徴を説明できる。 DNA複製を塩基の相補性に基づいて説明できる。 資料から塩基とアミノ酸の関係を推論できる。 遺伝子の発現と細胞の分化の関係を説明できる。	資料からDNA複製のしくみを推論しようとする。 塩基配列とアミノ酸配列の関係を推論する。 授業内容や思考内容を記録し整理する。	5月 6月 期末 考查
3章 ヒトのからだの調節 1節 体内環境 2節 体内環境の維持のしくみ 3節 免疫	体内環境やその調節に関わる実験や資料に基づいて、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを理解する。 体内環境の維持のしくみに関する資料に基づいて、体内環境の維持と自律神経系やホルモンの働きとの関係を理解する。 血糖量調節を主題に取り上げ、内分泌系と自律神経系との協調について理解する。 免疫に関する資料に基づいて、異物を排除する防御機構が備わっていることを理解する。	体液の構成とその働きについて理解している。 心臓、肝臓、腎臓の構造と働きを理解している。 血液凝固のしくみを理解している。 自律神経系の働きを理解している。 内分泌系とホルモンの働きを理解している。 血糖量調節のしくみについて理解している。 自然免疫と獲得免疫の違いとそれにかかわる血球を理解している。 アレルギーや予防接種について理解している。	資料に基づき体内環境の恒常性を見出す。 グラフからヘモグロビンの働きを説明できる。 資料から体内環境維持のしくみを考察できる。 資料から糖尿病がおきるしくみを考察できる。 資料に基づき白血球の役割を説明できる。 自然免疫と獲得免疫の関係を説明できる。 予防接種の重要性を説明できる。	恒常性維持のしくみを考察しようとしている。 免疫の働きについて考察しようとしている。 授業内容や思考内容を記録し整理する。	9月 10月 中間 考查
4章 生物の多様性と生態系 1節 植生と遷移 2節 植生とバイオーム 3節 生態系と生物の多様性 4節 生態系のバランスと保全	植生の遷移に関する資料に基づいて、遷移のしくみを理解する。また、遷移の結果として成立する植生は、環境によって異なることを理解する。 世界や日本には各地の気温や降水量と関連して多様なバイオームが成立することを理解する。 生態系を構成する種同士の関係性を理解し、それと関連して、生態系における種多様性について理解する。 生態系のバランスに関する資料に基づいて、生態系のバランスと人為的攪乱を関連付けて理解する。また、生態系の保全の重要性を認識する。	生態系を構成する要素を理解している。 植生の遷移とそのしくみを理解している。 菌生植物と陸生植物の違いを理解している。 日本と世界のバイオームについて理解している。 生態系内の生物同士の関係を理解している。 人間活動の環境への影響を理解している。 環境保全の重要性を理解している。	遷移と環境変化の関係を説明できる。 光条件や土壌と植生の関係を考察できる。 バイオームと環境条件との関係を考察できる。 生態系における種多様性の重要性を説明できる。 生態系のバランス維持のしくみを考察できる。 生態系保全のために必要なことを説明できる。	バイオームと環境要因との関係を考察しようとする。 人間活動の生態系への影響を考察しようとする。 生態系の保全のために自分ができることについて、自ら考え行動しようとする。 授業内容や思考内容を記録し整理する。	10月 12月 期末 考查
総合演習	生物基礎全体を通じて、総合的に振り返る形で入試問題などに取り組み、内容を確認する。	生物基礎における基本的な知識を理解し、さまざまな問題に対して、その知識を応用していくことができる。	実験や実習にかかわる問題に対して、学んだ知識を踏まえながらデータを分析し、それをもとに考えて、正しい解を導くことができる。	生物基礎全体を通じて、重点ポイントを記録し、整理する。	1月

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	理科	履修学年	3	教科書(出版社)	物理(数研出版)、物理基礎(数研出版)
科目	物理演習	必修 選択	自由選択	副教材等	(新課程版)2025セミナー-物理基礎+物理
単位数	2				

1 学習の到達目標

「物理(4単位)」の学習を踏まえて、関連する演習問題に取り組むことなどを通して、物理的な事象・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を身につける。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
物理学の基本的な概念や原理・法則の理解	演習問題に取り組む中で養われる、科学的に探究する力	物理的な事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
第1編 力と運動 平面内の運動および運動量 円運動および単振動 万有引力	平面内の運動および運動量…平面内の運動と運動量の関連性について理解する。 円運動…円運動をする物体の様子を表す方法やその物体に働く力などについて理解する。 単振動…単振動の規則性を見いだして理解するとともに、単振動をする物体の様子を表す方法やその物体に働く力などについて理解する。 万有引力…①惑星の観測資料に基づいて、惑星の運動に関する法則を理解する。 ②万有引力の法則及び万有引力による物体の運動について理解する。	平面内の運動および運動量の関連性について理解するとともに、それらの演習問題を解くことができる。 円運動および単振動について理解するとともに、それらの演習問題を解くことができる。 万有引力について理解するとともに、それらの演習問題を解くことができる。	平面内の運動および運動量の関連性について、演習問題などを通して探究し、規則性や関係性を見いだして表現している。 円運動および単振動について、演習問題などを通して探究し、規則性や関係性を見いだして表現している。 万有引力について、演習問題などを通して探究し、規則性や関係性を見いだして表現している。	物理的な事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。 ※「平面内の運動および運動量」、「円運動および単振動」、「万有引力」に共通の評価基準	4月～5月・中間考査
第1編 力と運動 気体分子の運動 第4編 電気と磁気 電場および電流	気体分子の運動…①気体分子の運動と圧力との関係を理解する。 ②気体の内部エネルギーについて、気体分子の運動と関連付けて理解する。 ③熱、仕事及び内部エネルギーの関係を理解する。 電場および電流…①電荷が相互に及ぼし合う力や電界の表し方を理解する。 ②電界と電位との関係を静電気力による位置エネルギーと関連付けて理解する。 ③コンデンサーの性質を理解するとともに、電気容量を電界や電位差と関連付けて理解する。 ④電気回路…電気回路における基本的な法則を理解する。	気体分子の運動…気体分子の運動について理解するとともに、それらの演習問題を解くことができる。 電場および電流…電気と電流について、日常生活や社会と関連付けて理解するとともに、それらの演習問題を解くことができる。	気体分子の運動…気体分子の運動について、演習問題などを通して探究し、規則性や関係性を見いだして表現している。 電場および電流…電気と電流について、演習問題などを通して探究し、規則性や関係性を見いだして表現している。	物理的な事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	6月～7月・期末考査
第4編 電気と磁気 電流と磁場	(電流と磁場) ①電流がつくる磁界の様子を理解する。 ②電流が磁界から受ける力について理解する。 ③…磁束の変化と誘導起電力の向きや大きさとの関係を見いだして理解するとともに電磁誘導の法則を理解し、交流の発生について理解する。 ④…電磁波の性質とその利用について理解する。	電流と磁場…電流と磁界について、日常生活や社会と関連付けて理解するとともに、それらの演習問題を解くことができる。	電流と磁場…電流と磁界について、演習問題などを通して探究し、規則性や関係性を見いだして表現している。	物理的な事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	9月～10月・中間考査
第5編 原子 原子と光 原子と原子核	電子と光…①電子の電荷と質量について理解する。 ②電子や光の粒子性と波動性について理解する。 原子と原子核…①原子の構造及びスベクトルと電子のエネルギー準位との関係について理解する。 ②原子核の構成、原子核の崩壊及び核反応について理解する。 ③…素粒子の存在について知る。	原子と光…電子と光について理解するとともに、それらの演習問題を解くことができる。 原子と原子核…原子と原子核について理解するとともに、それらの演習問題を解くことができる。	原子と光…原子について、演習問題などを通して探究し、電子と光における規則性や関係性を見いだして表現している。 原子と原子核…原子について、演習問題などを通して探究し、原子と原子核における規則性や関係性を見いだして表現している。	物理的な事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。 ※「原子と光」、「原子と原子核」に共通の評価基準	11月～12月・期末考査

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	保健体育	履修学年	3	教科書(出版社)	新高等保健体育改訂版(大修館)
科目	体育	必修・選択	必修	副教材等	なし
単位数	3				

1 学習の到達目標

運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、計画的に運動に親しむ能力を身に付ける。また、各種の運動を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、生涯を通じて継続的に運動ができる能力を育てる。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間考えたことを他者に伝えている。	公正に取り組み、互いに協力する、自己の責任を果たす、一人一人の違いを大切にしようとしている。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・ 考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
体づくり運動	(1) 次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解するとともに、自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てること。 ア 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付き、仲間と主体的に関わり合うこと。 イ 実生活に生かす運動の計画では、自己のねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画を立て取り組むこと。 (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 (3) 体づくり運動に主体的に取り組みとともに、互いに助け合い高め合うこと、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようすること、合意形成に貢献しようすることなどや、健康・安全を確保すること。	・体づくり運動では、自己のねらいに応じて、効果的な成果を得るための適切な運動の行い方があることについて、言ったり書き出したりしている。 ・体力の構成要素は、健康に生活するための体力と運動を行うための体力に密接に関係していることについて、言ったり書き出したりしている。	・生活様式や体力の程度を踏まえ、自己のねらいに応じた運動の計画を立案している。 ・体づくり運動の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生産にわたって楽しむための関わり方を見付けている。	・体づくり運動の学習に主体的に取り組もうとしている。 ・危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。 ・一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとしている。	1 ・ 学 期
体育理論	(1) スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、その解決を目指す活動を通して、次の事項を身に付けることができるようになること。 (2) 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を発見し、その解決を目指す活動を通して、次の事項を身に付けることができるようになること。 (3) 豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、その解決を目指す活動を通して、次の事項を身に付けることができるようになること。	・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解している。 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解している。	・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	・運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に主体的に取り組もうとしている。 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に主体的に取り組もうとしている。	1 ・ 2 学 期
水泳	(1) 次の運動について、記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、自己に適した泳法の効率を高めて泳ぐこと。 イ 平泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、伸びのある動作と安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすること。 ロ 背泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、伸びのある動作と安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすること。 ハ 自由泳では、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、伸びのある動作と安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすること。	・水泳では、各種目や運動の局面ごとに技術の名称があり、それぞれの技術には、効率のよい泳ぎにつながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の仕方について、学習した具体例を挙げている。 ・水泳の種目によって必要な体力要素があり、その種目の技能に関連させながら体力を高めることができる。 ・流線型の姿勢を維持して、しなやかでリズムカルなキックを打つことができる。 ・抵抗の少ない肩幅程度の足の引き付けから、足先を外側にして直ちにキックをすることができ。 ・水平姿勢を維持しながら泳ぐことができる。 ・体のうねり動作に合わせたしなやかなドルフィンキックをすることができ。 ・各泳法に適した準備の姿勢から、スタートの合図と同時に力強く蹴りだし、抵抗の少ない姿勢で進行方向に体を伸ばすことが	・選択した泳法について、自己や仲間の動きを分析して、良い点や修正点とその理由を仲間へ伝えている。 ・課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の新たな課題を発見している。 ・自己や仲間の課題を解決するための練習の計画を立てることについて振り返っている。 ・練習や競技会などの場面で、自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を見付けている。	・水泳の学習に主体的に取り組もうとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。 ・水泳の事故防止の心得を遵守し、危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。	1 ・ 2 学 期
種目選択 (球技)	(1) 様々なスポーツ・運動を通して、体を動かす楽しさや喜びを味わい、技能・体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを考え、個人・グループの能力に応じた授業の計画・実践・振り返りを行うことにより、生涯を通じて継続的に運動ができる知識・能力を育成し、実生活に役立てること。 (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 (3) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようすること、合意形成に貢献しようすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようすること、互いに助け合い高め合うことなどや、健康・安全を確保すること。	・球技では、各型の各種目の局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦は、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法について、学習した具体例を挙げている。	・選択した種目について、グループや自己の動きを分析して、良い点や修正点について考え、授業計画を立てることができている。 ・グループでの活動の場面で、よりよいグループ活動を行うための方法や改善点を考え、仲間へ伝えている。	・球技の学習に主体的に取り組もうとしている。 ・相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。 ・自己の役割を果たし、グループ活動が円滑に進むための行動をしている。	通 年

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	外国語(英語)	履修学年	3	教科書(出版社)	Genius English Logic and Expression III (大修館)
科目	論理・表現Ⅲ	必修	必修	副教材等	UPGRADE 英文法・語法問題 完全演習 実践ランダム編 (数研出版)
単位数	2				

1 学習の到達目標

言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既知の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしている。	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしている。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
Lesson1 Should People Have Pets? Lesson2 Printed Books or E-books Lesson3 Which Media Provides the Most Trustworthy Information?	・動詞や助動詞を適切に使うことができる。 ・各単元のテーマについて考え、英語でまとめることができる。 ・各単元のトピックに関してまとまった量の英作文を書くことができる。	動詞や助動詞を用いて、各単元のテーマについて、ほぼ正しい英語で書くことができる。	各単元のテーマについて考え、論理的に詳しく書くことができる。	各単元のテーマについて、自ら進んで論理的に詳しく書こうとする態度が見られる。また、自分の書いたものを振り返り、改善点を見出している。	4月～5月・中間考査
Lesson4 Which Language Is the Best to Learn? Lesson5 What Abilities Will Be Needed in a Society with Highly Advanced AI? Lesson6 How Can Gender Equality Be Realized?	・形容詞や副詞を適切に使うことができる。 ・各単元のテーマについて考え、英語でまとめることができる。 ・各単元のトピックに関してまとまった量の英作文を書くことができる。	形容詞や副詞を用いて、各単元のテーマについて、ほぼ正しい英語で書くことができる。	各単元のテーマについて考え、論理的に詳しく書くことができる。	各単元のテーマについて、自ら進んで論理的に詳しく書こうとする態度が見られる。また、自分の書いたものを振り返り、改善点を見出している。	5月～7月・期末考査
Lesson7 Should All Public Spaces Have Security Cameras? Lesson8 Will Human Life Expectancy Increase Lesson9 What Kind of Company Would You Start?	・名詞のあとに説明を加えることができる。 ・各単元のテーマについて考え、英語でまとめることができる。 ・各単元のトピックに関してまとまった量の英作文を書くことができる。	名詞の後に説明を加えて、各単元のテーマについて、ほぼ正しい英語で書くことができる。	各単元のテーマについて考え、論理的に詳しく書くことができる。	各単元のテーマについて、自ら進んで論理的に詳しく書こうとする態度が見られる。また、自分の書いたものを振り返り、改善点を見出している。	9月～10月・中間考査
Lesson10 Better Designs for a Better Life Lesson11 What Should Be Done to Protect the Earth? Lesson12 Writing a Short Story	・不定詞と動名詞を適切に使うことができる。 ・各単元のテーマについて考え、英語でまとめることができる。 ・各単元のトピックに関してまとまった量の英作文を書くことができる。	不定詞と動名詞を用いて、各単元のテーマについて、ほぼ正しい英語で書くことができる。	各単元のテーマについて考え、論理的に詳しく書くことができる。	各単元のテーマについて、自ら進んで論理的に詳しく書こうとする態度が見られる。また、自分の書いたものを振り返り、改善点を見出している。	10月～12月・期末考査

